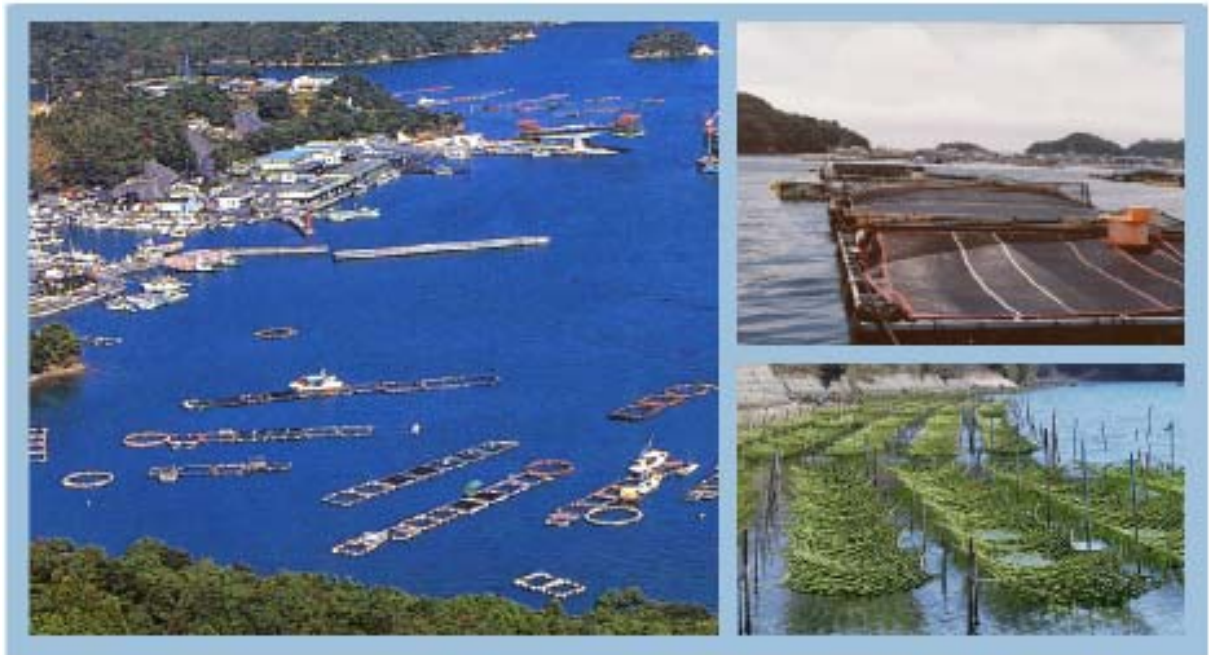




第33回UJNR水産増養殖専門部会
日米合同会議
The 33rd Joint Meeting of the UJNR Aquaculture Panel

議事録
Minutes



平成16年11月
November, 2004

独立行政法人 水産総合研究センター
Fisheries Research Agency

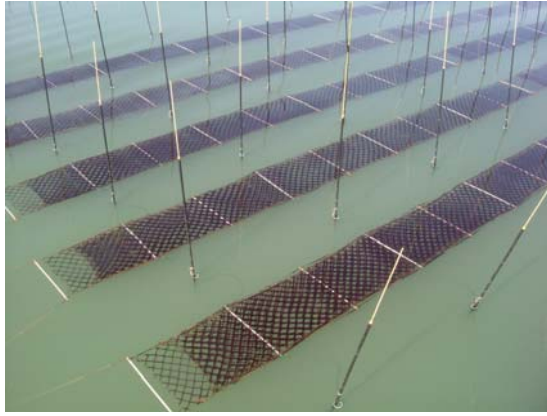


第33回UJNR日米合同会議会場
(西海区水産研究所)

事務会議 (西海区水産研究所会議室) 2004.11.2



シンポジウム参加者 (西海区水産研究所) 2004.11.3



フィールドトリップ（有明海ノリ養殖施設）2004.11.4



フィールドトリップ（東町複合養殖施設）2004.11.5



フィールドトリップ（東町漁協魚市場）
2004.11.5



フィールドトリップ（東町漁協魚市場）
2004.11.5

目 次

議 事 録

1 . 和文	1
2 . 英文	5

資 料

1 . 合同会議行事日程	9
2 . 事務会議議事次第	11
3 . 挨拶	
(1)日本側	12
(2)米側	13
4 . 事務会議出席者名簿	14
5 . 研究者交流	
(1)日本側	18
(2)米側	20
6 . 交換文献リスト	
(1)日本側	21
(2)米側	39
7 . 第 6 次 5 年計画	45
8 . シンポジウム資料	47
(1)趣旨	48
(2)プログラム	49
(3)要旨	53
(4)参加者名簿	83

議 事 録

第 33 回 UJNR 水産増養殖専門部会日米合同会議議事録

第 33 回 UJNR 水産増養殖専門部会日米合同会議は、平成 16 年 11 月 2 日から 7 日まで、日本の長崎、熊本、鹿児島、福岡において開催された。合同会議及びシンポジウムは 11 月 2～3 日に長崎県にある（独）水産総合研究センター西海区水産研究所において開かれた。シンポジウムは「増養殖漁場の生態系および環境収容力」をテーマとして企画された。

日米部会長による合同会議挨拶

第 33 回 UJNR 水産増養殖専門部会日米合同会議に先立ち、日本側参加者を代表して酒井部会長から米国側参加者に対する歓迎の言葉が述べられた。また、本会議の設営のために尽力された西海区水産研究所のスタッフに対してお礼が述べられた。これに対し、米国側参加者を代表して James P. McVey 米国側部会長から、今回の会議への招待と温かな歓迎の言葉に対する感謝の言葉が述べられるとともに、最近日本各地を襲った地震及び台風による被災者に対してお悔やみの言葉が述べられた。

事務局員、参加者、オブザーバーの紹介

日本側、米国側の順で合同会議参加者の自己紹介が行われた。

続いて、酒井部会長により書記の確認が行われ、日本側は伊藤文成事務局員が、米国側は Melanie Caesar 事務局長補佐が担当することで了承された。

議事次第の提案

酒井部会長により、合同会議議事次第及びシンポジウム次第案の採択が行われ、案に沿って議事を進めることが確認された。

研究者交流と文献交換

酒井部会長により指名された小林事務局員から、昨年（平成 15 年）の第 32 回 UJNR 水産増養殖専門部会日米合同会議以降、25 名の日本人が米国を訪れ研究交流活動があったことが報告された。また、文献交換の資料に基づき、ウェブサイトからは検出不能な 79 報の文献リストと検出可能な 150 の文献リストの紹介があった。

引き続き、James P. McVey 部会長により指名された James J. Sullivan 研究者交流担当官から、Howard Bern 博士の昨年からの活動に焦点を絞った研究交流の詳細が紹介され、日米間の研究交流が増養殖研究のリーダー育成に役立つ実例が報告された。また、James P. McVey 部会長から 43 件の文献リストの紹介があり、すでに日本側に送付されているとの説明があった。これらのリストは NOAA のウェブサイトで見ることが出来る。

プロシーディングスの出版状況

横山運営委員から、第31回 UJNR プロシーディングスは水産総合研究センター報告の別冊としてすでに出版されたこと、米国側にも送付されたことが報告された。

これに対し、James P. McVey 部会長は確かに受け取ったと述べられた。また、James P. McVey 部会長は第32回 UJNR プロシーディングスの進展状況の説明があり、現在のところすべての論文が集まり編集作業に入っており、6ヶ月以内に出版したい旨の説明があった。

協議事項

UJNR 組織の変更について

酒井部会長から、このパネル（UJNR 水産増養殖専門部会）の活動は非常に活発に行われており、現時点で組織の変更は考えていないとの日本側の方針が示され、この点についての意見が求められた。これに対し、James P. McVey 部会長からも現在の姿の組織で続けたいとの米国側の方針が示された。両国の部会長は UJNR 水産増養殖専門部会の組織変更は考えない方針を確認し、このことを UJNR 上部組織に伝えていくこととした。

第6次5カ年計画のフォローについて

横山運営委員から資料（The Sixth Five-Year Plan of the UJNR Aquaculture Panel, 2002-2006）に沿って進行状況が説明された。当初計画での本年度（2004年度）のテーマ「増養殖漁場の生態系と環境収容力」と2005年度のテーマ「魚類の増養殖」は、昨年の合同部会における合意により入れ替わっているが、順調に進行している。また、日米双方は2006年度のテーマが「Building Sustainable Sea Food Supplies through Aquaculture, Wildstock Enhancement and Habitat Management」であることを確認した。

2005年度 NOAA ワークショップ（ハワイ）の開催について

James P. McVey 部会長は、2005年4月18日から22日にハワイにおいて開催される NOAA ワークショップに、日本側から数名のチームとしての参加を要請したい旨すでに酒井部会長に対し伝えてあると述べた。このワークショップには日本のほか中国、韓国、ベトナム、カナダ及び米国などからそれぞれ5、6名の学際的なチームとしての参加を呼びかけている。また、このワークショップのトピックは沿岸地域の生態系を基本とした管理であり、環境と増養殖に焦点を当てたものであるとの説明があった。

これに対し、酒井部会長は取り上げられているテーマは重要な問題であると認識しており、日本側は参加すべく予算的な検討をしている段階にあると回答した。

第33回 UJNR シンポジウムのプロシーディングスの出版について

杜多シンポジウム企画委員長から、今回のシンポジウムのプロシーディングスは第

31 回 UJNR シンポジウムと同様に水産総合研究センター報告の別冊として出版するとの報告があった。また、日本側の論文は杜多シンポジウム企画委員長が集め、シンポジウム企画委員により査読を行うので、米国側で英語のリバイスをお願いしたいこと、米国側の論文は米国で集め、査読を行った上で、日本に送付願いたいとの依頼がなされた。James P. McVey 部会長により杜多シンポジウム企画委員長の依頼は了承され、米国側は Mac Rawson オブザーバーが責任者となることが確認された。

その他の課題

Charles Helsley 運営委員より、UJNR プロシーディングスの査読方針について、資料 (A Suggestion for a Formal Change in the UJNR Proceedings Publication Policy) に基づいてこれを 2 部構成とする案が提示され、この件を次回合同会議において論議することを提案した。これは 3 年前の UJNR 合同部会における日本側の提案に答えたものである。この提案に対し、酒井部会長は、日本側としても前向きに検討を続けていく旨返答した。

次回の UJNR ミーティングについて

James P. McVey 部会長から、現在 Dallas Alston オブザーバーと話し合いをしているところであるが、プエルトリコで開催したいとの説明があった。Dallas Alston オブザーバーは、今回の会議に参加できたことのお礼と、会議の開催は 2005 年の 10 月あるいは 11 月と考えており、来年は是非みなさんをプエルトリコに招待したいと述べられた。James P. McVey 部会長から、次年度の合同部会の開催地についてはまだ不確定な要素があるが、バージニアもしくはサウスカロライナ Sea Grant がバックアップする体制をとりたい。来月中に決定しその情報を日本側に知らせるとの補足説明があった。これに対し、酒井部会長から感謝の言葉が述べられた。

その他

Linda Chaves 運営委員から、第 3 回国際栽培漁業シンポジウムは米国ワシントン州シアトルにおいて 2006 年 9 月 17 日から 22 日まで開催されるとの情報が提供された。また、前回日本の神戸で開催された第 2 回国際栽培漁業シンポジウムの運営に対してお礼が述べられた。

Linda Chaves 運営委員から、魚類増養殖のリスクアセスメントに関し FAO COFI 増養殖分科会の援助を受けて専門家会議が組織されるとの情報が提供された。これに対し酒井部会長は、それに関する詳しい情報をいただきたいとの発言をし、米国側は了承した。

また、James P. McVey 部会長より、過去において成功していた日米間の学生の交流に関して次のような発言があった。プエルトリコあるいはハワイなどの地に日本からの学生を送っていただきたい。ダイビングのできる学生であればさらに歓迎される。これに関しては、後ほど正式な書類を日本側に送付する。

まとめ

酒井部会長は、この会議の開催に尽力されたスタッフ、及び会議に参加・協力されたすべての方々に感謝の意を表した。また、通訳として日米両国の意志疎通を図られた土井美智子女史に謝意を述べた。

酒井部会長は、第33回 UJNR 合同会議のすべての議事がこれで終了したことを宣言した。

2004年11月6日、福岡において議事録にサインが交わされた。

平成16年11月6日

酒井 保次
日本側部会長

ジェームスP. マクベイ
米国側部会長

Minutes for the 33rd Annual UJNR Aquaculture Meeting

The 33rd Joint Meeting of the UJNR Aquaculture Panel was held from November 2-7, 2004 in Nagasaki, Kumamoto, Kagoshima and Fukuoka Japan. The business meeting and symposium were held in Nagasaki, Japan, Seikai National Fisheries Research Institute on November 2nd and 3rd, 2004. The theme of the symposium was Ecosystem and Carrying Capacity of Aquaculture Ground for Sustainable Development of Aquaculture and Stock Enhancement.

Opening Remarks

Dr. Sakai opened the meeting and welcomed Dr. McVey and the U.S. delegation. Dr. Sakai expressed his interest in this year's theme and indicated that the UJNR Aquaculture Panel was a very important panel under the UJNR framework. Dr. McVey echoed Dr. Sakai's statements and noted that this year's theme resonated with many policy developments in the U.S. Dr. McVey thanked Dr. Sakai for his hospitality and indicated that he looked forward to a very productive meeting. Dr. McVey also expressed his sympathy for the recent victims of the earthquake and for the troubles endured during the typhoons earlier this year.

Procedural Matters

Dr. Sakai and Dr. McVey introduced their panel members.

Dr. Sakai requested that the agenda be adopted and both parties agreed.

Dr. Ito was nominated to take notes for the Japan side. Melanie Caesar was nominated to take notes for the U.S. side.

Scientific Exchange and Literature Exchange

Dr. Kobayashi indicated that the Japanese side had collected 79 pieces of literature that were difficult to access for the exchange and that they would send this material to the U.S. He also noted that there are over 150 papers available on the NRIA website. Also, he noted that 25 individuals had traveled to the U.S. after the UJNR aquaculture panel meeting for UJNR related matters. Dr. Sullivan reported on Dr. Bern's travels in Japan last year to illustrate the importance of the long history of U.S. and Japanese cooperation. Many connections between American and Japanese students, professors, and researchers have led to the development of strong aquaculture leaders in both countries. Dr. McVey noted that the U.S had collected 43 titles for the literature

exchange. This list will be posted on NOAA's UJNR website and the materials have already been sent to Japan.

Status of the Publications

Dr. Yokoyama indicated that Japan had completed the publishing of the 31st proceedings and this information was published in the Bulletin of Fisheries Agency: Supplement. The U.S. indicated that they had received this bulletin and are distributing the information in their network. The U.S. is in the process of finishing the editing of the 32nd proceeding and hopes to publish the information in 6 months.

General Discussion

Modification of the UJNR System

Both sides indicated that they were very happy with the current configuration of the UJNR panels. The U.S. indicated that did not want the Aquaculture panel to move to a food security theme. The U.S. wished to remain in the marine panels framework. Japan indicated that they were happy with the current system as well and did not wish to see any structural changes to the system. Both panel chairs indicated that they would express this information to the UJNR executive committee.

Follow-up of the 6th Five year plan.

Both sides confirmed that next year's theme would be Aquaculture and Stock Enhancement of Finfish (2005). There was some difference in the English wording of the title for 2006. The U.S. indicated that their notes said that the theme would be Building Sustainable Food Supplies through Aquaculture, Wildstock Enhancement, and Habitat Management. The Japanese agreed to this wording.

Workshop on Balanced Ecosystem in Hawaii ,2005

Dr. McVey indicated that the U.S. had sent an invitation to Dr. Sakai to participate in a workshop in April of next year. The invitation requested that Dr. Sakai compose a team of 5 to 6 individuals to develop a scenario in which aquaculture could be considered as a tool for coastal zone management. The U.S. indicated that they have cooperative agreements in aquaculture with China and Korea, and representatives from these countries have also been invited to form teams. There will also be a team from Canada and Vietnam and experts from Europe. The Japanese indicated that they are still considering this proposal.

Publication of the 33rd Proceedings

Dr. Toda indicated that the proceedings would be published in a supplement to the Bulletin of Fisheries Agency. Dr. Mac Rawson indicated that he could facilitate the English editing of the scientific papers. Dr. Rawson served as the primary organizer of the U.S. scientific program for this year's meeting.

Other New Business

Dr. Helsley noted that the method of peer review for the publication of the UJNR proceedings was a concern expressed by the Japanese three years ago. To respond to this concern, the U.S. drafted a proposal on developing an optional peer-review process. Dr. Helsley gave the proposal to the Japanese and requested they discuss this item at the meeting next year. The Japanese accepted the proposal and indicated that they would review the idea.

Dr. Dallas Alston indicated that the University of Puerto Rico would like to organize the next UJNR meeting `Aquaculture and Stock Enhancement of Finfish` in Puerto Rico. Dr. Alston indicated that this would occur in the October or November timeframe. However, there is still some uncertainty. Thus, Virginia Sea Grant or South Carolina Sea Grant Program would be back-up locations for the next year's meeting. The U.S. noted that this decision will be finalized in the next month, and they will send this information to the Japanese counterparts.

Other

Dr. Linda Chaves gave an announcement about the Third Symposium on Stock Enhancement and Sea Ranching, which will be held on Sept. 17-22nd 2006. She also commended the Japanese for their excellent job in organizing the second symposium.

Dr. Linda Chaves indicated that an Experts Working Group is being organized under the auspices of the FAO COFI Aquaculture Subcommittee to develop protocols for the conduct of Risk Assessment for Finfish Aquaculture. The U.S. agreed to send more information about this meeting when details are finalized.

Finally, Dr. McVey indicated that he would like to re-establish the student exchanges that had been very successful in the past. However, they would like to invite Japanese graduate students to locations such as Puerto Rico and Hawaii to participate in those offshore aquaculture programs. He noted that students with an ability to dive

would be more appropriate. The U.S. agreed to send more information to the Japan side.

Conclusion

Dr. Sakai thanked those arranged the meeting and welcomed the U.S. side again.

Since the business had been concluded, the 33rd joint business meeting of the UJNR Aquaculture Panel Meeting was then adjourned. These minutes were signed on November 6, 2004 in Fukuoka, Japan.

Dr. Yasuji Sakai
Japan Chairman

Dr. Jim McVey
U.S. Chairman

資 料

33rd UJNR Aquaculture Panel Meeting
November 1-7, 2004
Schedule of Events

Monday November 1

18:45	Arrival of the salmon conference group of US delegation from Sapporo via Osaka/Itami.(JAL#2379) The direct group of US delegation departs from Tokyo/Haneda to Nagasaki.
21:00	Arrival of US delegation at Nagasaki Air Port (ANA#669, JAL#1857)
21:10	Move to Nagasaki city by Airport Liner Bus (get off at Nagasaki-Shinchi bus terminal, one min. to the Hotel on foot) Hotel check in: Nagasaki Washington Hotel

Tuesday November 2

08:00	Pick up at Nagasaki Washington Hotel
08:40	Arrive at Seikai National Fisheries Research Institute
08:40-13:00	UJNR Registration
09:50	UJNR Aquaculture Panel's Business Meeting (Seikai National Fisheries Research Institute)
09:00	Tour of Seikai National Fisheries Research Institute (Event for Non-panel members)
12:00	Lunch
13:15	Symposium
17:15	Leave for Nagasaki Washington Hotel
18:30	Welcome reception (Nagasaki Washington Hotel)

Wednesday November 3

08:00	Pick up at Nagasaki Washington Hotel
09:00	Symposium (continued)
12:00	Lunch
13:15	Symposium (continued)
17:15	Leave for Nagasaki Washington Hotel
Evening	Dinner on own

Thursday November 4

Field trip	
08:00	Departure for field trip

09:30	Saga Prefectural Ariake Fisheries Research and Development Center Ariake bay (“Nori” culture field and “Nori” processing facilities)
12:00	Lunch
13:00	Leave for Nagashima town, Kagoshima
18:00	Hotel check in: Hotel Takakushi
Evening	Dinner at the hotel
Friday November 5	
07:00	Leave Hotel Takakushi Azuma cho Fisherman’s Association Yellow tail aquaculture related facilities (HACCP certificated) Whole sale market “Poly culture system” (Fish-Sea weed-Abalone)
12:00	Lunch
13:00	Leave for Kumamoto On the way, stopping at crane flying field and “Kumamoto Castle”
17:30	Hotel check in: Hotel City Kumamoto
Evening	Dinner on own
Saturday November 6	
08:30	Leave Hotel Visit to Mt “Aso” which has the largest crater in the world
12:00	Lunch
15:00	Arrive at Fukuoka Hotel check in: Sunlife Hotel Ichi (for singles) Hotel Century Art (for couples)
Evening	Farewell party
Sunday November 7	
09:30	Leave hotel and go to Fukuoka Airport by subway
12:00	United Air Line #9736
13:55	Arrive at Narita Air Port Return to U.S.

The 33rd UJNR Aquaculture Panel Meeting
Seikai National Research Institute
Wednesday, November 2, 2004

8:40-9:50 Registration and refreshment

Business Meeting Agenda

09:50 **Welcome and Introduction of Participants**

Yasuji Sakai, Japan Co-Chair

James McVey, U.S. Co-Chair

10:05 **Adoption of Agenda**

Business Meeting Agenda

Symposium Agenda

10:15 **Reports of U.S.-Japan Aquaculture Exchange Programs**

Report on Scientific Exchange

Report on Literature Exchange

Status of publication of the Proceedings

(31st and 32nd symposiums)

11:00 **Coffee Break**

11:10 **General Discussion**

Modification of UJNR system

Follow-ups on the 6th Five-Year Plan

NOAA's Workshop in Hawaii, 2005

Publication of 33rd symposium proceedings

Other New Business

Plans for Next UJNR Aquaculture Panel Meeting

11:50 **Information**

General Logistics & Field Trips

12:00 **Adjourn**

33rd UJNR Aquaculture Panel Meeting
November 1-7, 2004
Schedule of Events

Monday November 1

18:45	Arrival of the salmon conference group of US delegation from Sapporo via Osaka/Itami.(JAL#2379) The direct group of US delegation departs from Tokyo/Haneda to Nagasaki.
21:00	Arrival of US delegation at Nagasaki Air Port (ANA#669, JAL#1857)
21:10	Move to Nagasaki city by Airport Liner Bus (get off at Nagasaki-Shinchi bus terminal, one min. to the Hotel on foot) Hotel check in: Nagasaki Washington Hotel

Tuesday November 2

08:00	Pick up at Nagasaki Washington Hotel
08:40	Arrive at Seikai National Fisheries Research Institute
08:40-13:00	UJNR Registration
09:50	UJNR Aquaculture Panel's Business Meeting (Seikai National Fisheries Research Institute)
09:00	Tour of Seikai National Fisheries Research Institute (Event for Non-panel members)
12:00	Lunch
13:15	Symposium
17:15	Leave for Nagasaki Washington Hotel
18:30	Welcome reception (Nagasaki Washington Hotel)

Wednesday November 3

08:00	Pick up at Nagasaki Washington Hotel
09:00	Symposium (continued)
12:00	Lunch
13:15	Symposium (continued)
17:15	Leave for Nagasaki Washington Hotel
Evening	Dinner on own

Thursday November 4

Field trip	
08:00	Departure for field trip

09:30	Saga Prefectural Ariake Fisheries Research and Development Center Ariake bay (“Nori” culture field and “Nori” processing facilities)
12:00	Lunch
13:00	Leave for Nagashima town, Kagoshima
18:00	Hotel check in: Hotel Takakushi
Evening	Dinner at the hotel
Friday November 5	
07:00	Leave Hotel Takakushi Azuma cho Fisherman’s Association Yellow tail aquaculture related facilities (HACCP certificated) Whole sale market “Poly culture system” (Fish-Sea weed-Abalone)
12:00	Lunch
13:00	Leave for Kumamoto On the way, stopping at crane flying field and “Kumamoto Castle”
17:30	Hotel check in: Hotel City Kumamoto
Evening	Dinner on own
Saturday November 6	
08:30	Leave Hotel Visit to Mt “Aso” which has the largest crater in the world
12:00	Lunch
15:00	Arrive at Fukuoka Hotel check in: Sunlife Hotel Ichi (for singles) Hotel Century Art (for couples)
Evening	Farewell party
Sunday November 7	
09:30	Leave hotel and go to Fukuoka Airport by subway
12:00	United Air Line #9736
13:55	Arrive at Narita Air Port Return to U.S.

The 33rd UJNR Aquaculture Panel Meeting
Seikai National Research Institute
Wednesday, November 2, 2004

8:40-9:50 Registration and refreshment

Business Meeting Agenda

09:50 **Welcome and Introduction of Participants**

Yasuji Sakai, Japan Co-Chair

James McVey, U.S. Co-Chair

10:05 **Adoption of Agenda**

Business Meeting Agenda

Symposium Agenda

10:15 **Reports of U.S.-Japan Aquaculture Exchange Programs**

Report on Scientific Exchange

Report on Literature Exchange

Status of publication of the Proceedings

(31st and 32nd symposiums)

11:00 **Coffee Break**

11:10 **General Discussion**

Modification of UJNR system

Follow-ups on the 6th Five-Year Plan

NOAA's Workshop in Hawaii, 2005

Publication of 33rd symposium proceedings

Other New Business

Plans for Next UJNR Aquaculture Panel Meeting

11:50 **Information**

General Logistics & Field Trips

12:00 **Adjourn**

第33回 UJNR 水産増養殖専門部会日米合同会議挨拶

(独)水産総合研究センター養殖研究所長 酒井保次

UJNR 水産増養殖専門部会の第33回日米合同会議の開催にあたり、日本側代表として歓迎のご挨拶申し上げます。

本会議のため、遠く米国よりお越しいただいた、McVey 米国側部会長ならびに米国側パネルメンバーの方々に厚く御礼申し上げます。ようこそ、長崎へ。

UJNR 水産増養殖専門部会は、長い活動の歴史を重ね、本年は第33回目の会議開催となります。この間、研究者の交流、文献の交換、共同研究の実施など、日米双方の協力による様々な活動により、本部会は両国の水産増養殖研究の発展に貢献して参りました。UJNR 水産増養殖専門部会が、UJNR 諸活動の中でも最も活発な活動を行っているところは、両国における共通の理解となっています。今後とも、両国の水産増養殖業が抱える様々な問題の解決に向け、UJNR 水産増養殖専門部会の積極的な取り組みが望まれるところであります。

今回の合同会議におけるシンポジウムは第6次5か年計画に基づくもので、「増養殖場の環境保全と環境収容力」がメインテーマとなっています。環境に調和した水産増養殖の発展は水産物の安定供給の上で極めて重要であり、世界共通の課題となっています。

第33回日米合同会議の会場となった長崎は、生産性の高い漁場、多様な生物種を有するなど、我が国でも有数の水産都市です。また、九州沿岸域は日本における魚類、貝類、そしてのり養殖の最大の生産地であり、そのため、これら増養殖漁場の環境に関わる様々な問題も抱えています。今回のシンポジウムにおいて両国の研究者による活発な討論によって、それらの諸問題を克服する端緒となれば幸いです。

ここ長崎は日本の長い歴史の中である時期、我が国でただ一つの外国に開かれた港でした。この長崎を通して、またこの地で多くの外国との交流がなされました。欧米の新しい科学技術もここを起点として日本各地に広がりました。この地で皆様と日米両国の水産増養殖発展についてより一層の相互理解と交流を深められることをうれしく思っています。

最後に、本会議の開催にあたって、会場の提供や準備など大きな尽力をいただいた、小林所長をはじめとする西海区水産研究所職員の皆様に感謝いたします。

Opening Remarks on Panel Symposium by Dr. James McVey

Good morning. It is my pleasure to greet you on behalf of the U.S. delegation. We are very pleased that the Japan Chair, Dr. Yasuji Sakai, the other UJNR panel members, and our hosts from Seikai National Fisheries Research Institute have invited us here to beautiful Nagasaki. We appreciate your invitation and look forward to the scientific symposium, the field trip, and the overall opportunity to participate in one of the most vibrant panels under the UJNR framework. I should also thank Mac Rawson for the work he did in gathering together the U.S. scientific team. I would also like to express our sympathy for the victims of the recent earthquake in Japan and the series of typhoons that hit Kyushu earlier this fall.

We are in the third year of the sixth five-year plan for scientific exchange and this meeting will mainly focus on ecosystem carrying capacity of aquaculture ground. The previous meeting in this series focused on crustacean disease and pathology, and the next two meetings will focus on aquaculture and stock enhancement of finfish and building sustainable food supplies through aquaculture, wild stock enhancement, and habitat management. These resonate with recent developments in NOAA to integrate aquaculture into coastal resources management.

I would like to point out that the U.S. has recently completed a major national ocean review through the U.S. Commission on Ocean Policy. This commission made four recommendations on marine aquaculture and devoted an entire chapter to marine aquaculture issues. The commission called for a shift to multi-species management for fisheries and a future focus on ecosystem-based management. We have seen this shift occurring around the world in many countries and at our UJNR meeting. My colleague, Cheng-Sheng Lee, will describe a NOAA sponsored multi-national workshop exploring the use of aquaculture as a tool for ecosystem-based management in April during his presentation. Today, we are right on target for bringing these important issues into discussions through our bilateral agreement.

Thank you again for the invitation and for all of the preparations that went into this meeting. We look forward to a positive week in which we can further strengthen an effective partnership for furthering our mutual interest in marine aquaculture research, operations, and results.

Japanese Member of UJNR Aquaculture Panel, 2004

Chair	Yasuji Sakai	Director General National Research Institute of Aquaculture Fisheries Research Agency (FRA) 422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-0913, Japan Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962 E-mail: sakaiy@fra.affrc.go.jp
Vice Chair	Tokio Wada	Counselor Resources Enhancement Promotion Department Fisheries Research Agency of Japan 1-2-1 Kasumigaseki, Chiyoda, Tokyo 100-8907 Tel: +81-3-3502-8111 (ext. 7316), Fax: +81-3-3591-5314 E-mail: wadat@affrc.go.jp
Vice Chair	Ichiro Hara	Director Research Promotion and Development Department Fisheries Research Agency (FRA) 15F Queen's Tower B, 2-3-3 Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama 220-6115, Japan Tel: +81-45-227-2674, Fax: +81-45-227-2703 E-mail: ichiroh@fra.affrc.go.jp
Panel Member	Kazuhiro Nakajima	Research Coordinator Research Promotion and Development Department Fisheries Research Agency (FRA) 15F Queen's Tower B, 2-3-3 Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama 220-6115, Japan Tel: +81-45-227-2677, Fax: +81-45-227-2703 E-mail; kazuhiro@fra.affrc.go.jp
Panel Member, Deputy Secretary General	Masahito Yokoyama	Director Farming Biology Division National Research Institute of Aquaculture Fisheries Research Agency (FRA) 422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-0913, Japan Tel: 599-66-1830, Fax: 599-66-1962 E-mail: yokomasa@fra.affrc.go.jp
Symposium Organizing Committee	Satoru Toda	Director Farming system Division National Research Institute of Aquaculture Fisheries Research Agency (FRA) 422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-0913, Japan Tel: 599-66-1830, Fax: 599-66-1962 E-mail: satoru@fra.affrc.go.jp

Secretary Member	Fuminari Ito	Group Leader Farming System Division National Research Institute of Aquaculture Fisheries Research Agency (FRA) 422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962 E-mail: fuminari@fra.affrc.go.jp
Secretary Member	Jun Kurita	Senior Researcher Aquatic Animal Health Division National Research Institute of Aquaculture Fisheries Research Agency (FRA) 224-1 Hiruta, Tamaki,, Watarai, Mie 519-0423, Japan Tel: +81-596-58-6411, Fax: +81-596-58-6413 E-mail: kuritaj@fra.affrc.go.jp
Secretary Member	Masahiro Kobayashi	Senior Researcher Farming Biology Division National Research Institute of Aquaculture Fisheries Research Agency (FRA) 422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962 E-mail: kobamk@affrc.go.jp
Observer	Ryo Kimura	Research Coordinator, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council Secretariat Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries 1-2-1 Kasumigaseki, Chiyoda-Ku, Tokyo 100- 8950, Japan Tel: +81-3-3502-8111 ex.5067 Fax: +81-3-3507-8794 E-mail: rkim@affrc.go.jp
Observer	Keita Hattori	Director Goto Station, National Center for Stock Enhancement Fisheries Research Agency (FRA) 122-7 Nunoura, Tamanoura, Goto, Nagasaki 853- 0508, Japan Tel: +81-959-88-2750, Fax: +81-959-88-2170 E-mail: keynote@affrc.go.jp

U.S.A. Member of UJNR Aquaculture Panel, 2004

Chair	James P. McVey	Aquaculture Program Director, National Sea Grant College Program Office of the Oceanic and Atmospheric Research/NOAA 1315 East-West Highway, 11 th FL Silver Spring, MD 20910-3282, USA Tel: (301) 713-2451, ext. 160 Fax: (301) 713-0799 Email: jim.mcvey@noaa.gov
Secretary General	William Heard	Program Manager Auke Bay Fisheries Laboratory National Marine Fisheries Service National Oceanic and Atmospheric Administration (NOAA) 11305 Glacier Highway, Juneau Alaska 99801, USA Tel: (907) 789-6003, Fax: (907) 789-6094 Email: bill.heard@noaa.gov
Deputy Secretary General	Melanie Caesar	Program Manager Office of International Activities Office of the Oceanic and Atmospheric Research/NOAA 1315 East-West Highway, R/IA #11217 Silver Spring, MD 20910, USA Tel: +1-301-713-2469 ext 161 Fax: +1-301-713-1459 Email: melanie.caesar@noaa.gov
Panel Member, Scientific Exchange Officer	James J. Sullivan	Counselor, Hawaii Sea Grant College P.O. Box 2065 Del Mar, CA 92014, USA Tel: (858) 481-6243, Fax: (858) 481 2619 Email:jamesjsull@aol.com
Panel Member	Charles Helsley	Researcher Emeritus Department of Geology and Geophysics School of Ocean Environmental Science and Technology University of Hawaii at Manoa 2525 Correa Road, Honolulu, HI 96822, USA Tel: (808) 956-2873, Fax: (808) 956-3014 Email: chuck@soest.hawaii.edu

Panel Member	Bob Iwamoto	<p>Division Director Resource Enhancement & Utilization Technologies Division Northwest Fisheries Science Center National Marine Fisheries Service/NOAA 2725 Montlake Blvd. East Seattle, WA 98112, USA Tel: (206) 860-3380, Fax: (206) 860-3467 Email: bob.iwamoto@noaa.gov</p>
Panel Member	Linda Chaves	<p>National Marine Fisheries Service Industry and Trade Program (FXI/NMFS/NOAA) 1315 East-West Highway, Rm 3670 Silver Spring, MD 20910, USA Tel: +1-301-713-2379 Fax: +1-301-713-1081 Email:</p>
Symposium Leader	Mac Rawson	<p>Georgia Sea Grant Director Georgia Sea Grant College Program The University of Georgia Marine Sciences Bldg., Rm 2005 Athens, GA 30602-3636 Tel: +1-706-542-5954, Fax: +1-706-542-3652 Email: mrawson@uga.edu</p>
Observer	Dallas Alston	<p>Professor, Department of Marine Sciences University of Puerto Rico at Mayagüez PO Box 9013 Mayagüez, PR 00681-9013 USA Tel: +1-787-832-4040, x 3223; +1-787-265-3838 Fax: +1-787-265-5408 Email: dalston@uprm.edu</p>

**Exchange of Scientist
From Japan Aquaculture Panel
(From September 2003 to September 2004)**

UJNR related activities

1. 32nd UJNR Aquaculture Panel Meeting, Symposium (San Francisco, Santa Barbara)

Hokkaido National Fisheries Research Institute

Dr. Tadashi Andoh (2003.11.16-2003.11.24)

Tohoku National Fisheries Research Institute

Dr. Hideki Takami (2003.11.16-2003.11.23)

National Research Institute of Fisheries Science

Dr. Yuko Murata (2003.11.16-2003.11.23)

National Research Institute of Aquaculture

Dr. Yasuji Sakai (2003.11.16-2003.11.24)

Dr. Toshio Akiyama (2003.11.16-2003.11.24)

Dr. Masanori Okauchi (2003.11.16-2003.11.24)

Dr. Junya Higano (2003.11.16-2003.11.24)

Dr. Norihisa Ohseko (2003.11.16-2003.11.24)

National Research Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea

Dr. Tetsuo Seki (2003.11.16-2003.11.23)

Seikai National Fisheries Research Institute

Dr. Takeo Kurihara (2003.11.15-2003.11.20)

Mr. Tatsuya Yurimoto (2003.11.15-2003.11.23)

Others

2. Studying abroad (NASA Jet Propulsion Laboratory, Pasadena, California)

National Research Institute of Fisheries Science

Dr. Masataka Satomi (2004.3.15-2005.3.14)

3. Interbational Pacific Halibut Commission (Seattle)

National Research Institute of Far Sea Fisheries

Dr. Tsutomu Nishida (2003.10.21-2003.10.25)

4. 15th Meeting of Society for Marine Mammalogy (Greensboro)

National Research Institute of Far Sea Fisheries

Dr. Toshihide Iwasaki (2003.12.12-2003.12.20)

Mr. Toshiya Kishiro (2003.12.12-2003.12.21)

National Research Institute of Fisheries Engineering

Dr. Tomonari Akamatsu (2003.12.13-2003.12.22)

5. Society for Integrative and Comparative Biology 2004 Meeting

National Research Institute of Far Sea Fisheries

Dr. Seinen Chow (2004.1.5-2004.1.10)

Seikai National Fisheries Research Institute

Dr. Takeo Kurihara (2004.1.4-2004.1.10)

6. World Aquaculture 2004 (Hawaii)

National Research Institute of Fisheries Science

Dr. Toyomitsu Horii (2004.2.29-2004.3.7)

Mr. Kentaro Niwa (2004.2.29-2004.3.7)

Dr. Futoshi Aranishi (2004.3.1-2004.3.7)

7. National Science of Foundation of Japan Society for the Promotion of Science (Oregon)

National Research Institute of Fisheries Science

Dr. Takashi Tada (2004.6.5-2004.6.18)

8. The University of Hawaii Summer program (Hawaii)

National Research Institute of Fisheries Science

Dr. Takashi Tada (2004.7.10-2004.7.17)

9. International Conference on The Phage Biology (Florida)

National Research Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea

Dr. Keizo Nagasaki (2004.7.31-2004.8.7)

10. about Koi herpesviral infection (Davis)

National Research Institute of Aquaculture

Dr. Satoshi Miwa (2004.9.6-2004.9.12)

Sample of Scientific U.S. Scientific Exchanges:

In August of 2004, Dr. Sullivan met with Professor Muichiro Iwata of Kitasato University in Sanriko to discuss cooperation on salmonoid issues. Dr. Iwata was a Sea Grant supported Post Doc at Berkeley.

In the Fall of 2003, Emeritus Berkeley Professor Howard Bern spent two weeks at the Ocean Research Institute of the University of Tokyo in Tokyo where he discussed work with the Laboratory of Fish Physiology (Prof Y.Takei, his colleagues, and students) and met with some individuals from other laboratories in the Institute. He also spent time with Professor Ishwar Parhar and his students at Nippon University Medical School. From Tokyo, he went to the International Symposium on Amphibian and Reptilian Endocrinology and Neurobiology held at Jeju National University Park in Seogwipo, Korea, with many of Japanese colleagues in active attendance, along with a notable U.S. representation.

In the spring of 2004, Professor Bern returned to Japan for about 5 weeks, beginning with a week in the laboratory of Professor Yoshitaka, Nagahama at the National Institute for Basic Biology in Okazaki, meeting with his graduate students and postdoctorals and junior staff, to discuss their research. He also met with Professor Taisen Iguchi and the members of his laboratory at Okazaki. He then accompanied Professor Nagahama's laboratory people to the Fifth Congress of the Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology at Nara. This also was the occasion of the 30th Anniversary Meeting of the Japan Society for Comparative Endocrinology, at which Dr. Bern was presented a brief congratulatory message to the Society.

He also attended a reception in Kagoshima in honor of Professor Kohei Yamauchi, Dean of the Faculty of Fisheries of Hokkaido University in Hakodate, who had received a high award from the Emperor of Japan in recognition of his work in fisheries biological research and education. Professor Yamauchi was also a former postdoctoral of Emeritus Berkeley Professor Berkeley, specifically supported by California Sea Grant funds.

Dr. Bern also introduced Dr. Weiming Li of Michigan State University, who is a Sea Grant supportee, to fish biologists at both the Ocean Research Institute and at Nippon University while in Japan.

**Literature Exchange from Japanese
Aquaculture Panel, UJNR,
to The United States Panel, UJNR
(From August 2003 to July 2004)**

Tohoku National Fisheries Research Institute

1. Kamiyama, T. (2004)
Characteristics of environmental conditions in oyster farming area in Miyagi Prefecture, northern Japan. *Youshoku* **516**:88-91(In Japanese).
2. Nishimura, K., Suzuki, T., Katsura, E., Itabashi, Y. (2004)
Reversed-phase HPLC/MS analysis of fatty acid 9-anthrylmethyl ester derivatives. *Bunseki Kagaku* **53**:533-539(In Japanese).
3. Sekino, M. (2004)
Studies on genetic management of hatchery broodstock in relation to the stock enhancement of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Bull. Fish. Res. Agen.* **11**:31-91.
4. Suzuki, T., Beuzenberg, V., Mackenzie, L., Quilliam, M. (2003)
Novel okadaic acid and pectenotoxin analogues in *Dinohysis acuta* collected in New Zealand. *In APEC HABTEC 2003 Woorkshop*. pp. 42-43.
5. Suzuki, T., Beuzenberg, V., Mackenzie, L., Quilliam, M. (2004)
Discovery of okadaic acid esters in the toxic dinoflagellate *Dinophysis acuta* from New Zealand using liquid chromatography/tandem mass spectrometry. *Rapid Commun. Mass Spectrom.* **18**:1131-1138.

National Research Institute of Fisheries Science

6. Oohara, I., Murata, Y., Takashima, T. (2004)
Discrimination in *Pagrus major* and *Pagrus auratus*. *DNA Polymorphism*, **12**:79-81(In Japanese).
7. Nakayama, I. (2004)
Sex control research for aquatic animal breeding. *J. Anim. Genet.*, **31**(2):57-66(In Japanese).

National Research Institute of Far Seas Fisheries

8. Chow, S., Nohara, K., Tanabe, T., Itoh, T., Tsuji, S., Nishikawa, Y., Uyeyanagi, S., Uchikawa, K. (2003)
Genetic and morphological identification of larval and small juvenile tunas (Pisces: Scombridae) caught by a mid-water trawl in the western Pacific. *Bull. Fish. Res. Agen.* **8**:1-14.
9. Masuma, S., Tezuka, N., Obana, H., Suzuki, N., Nohara, K., Chow, S. (2003)

Spawning ecology of captive bluefin tuna (*Thunnus thynnus orientalis*) inferred by mitochondrial DNA analysis. *Bull. Fish. Res. Agen.* **6**:9-14(In Japanese).

10. Nohara, K., Okamura, J., Nakadate, M., Hiramatsu, K., Suzuki, N., Okazaki, M., Chow, S.(2003)
Biological investigation on two types of bill internal structure of swordfish (*Xiphias gladius*) and genetic differentiation between the North and South Atlantic stocks. *Bull. Fish. Res. Agen.* **7**:1-13(In Japanese).

National Research Institute of Aquaculture

11. Iida, T. (2004)
Koi herpesviral infection. *Farumasia*, **40**:243-246(In Japanese).
12. Iida T. (2004)
Recent progress in fish vaccinology. 2. Mechanisms of fish vaccine effect. *Aquanet*, **7**:42-45(In Japanese).
13. Iida T. (2004)
Recent progress in fish vaccinology. 3. Current status and prospects of development of fish vaccines. *Aquanet*, **7**: 46-48(In Japanese).
14. Ishihi, Y. (2003)
The food web structure of a seaweed bed analyzed using stable isotope ratios. *Youshoku*, **40**:86-88(In Japanese).
15. Kamaishi, T. (2004)
Intracellular bacteria in farmed Isaki (*Parapristipoma trilineatum*). *Youshoku*, **41**:84-87(In Japanese).
16. Kobayashi, T., Masaoka, T., Yoshida, M., Tsukada, O., Sawatari, T. (2003)
Molecular phylogeny of Gasterosteiformes (Teleostei) - Interrelationships of families. *DNA Polymorphism*, **11**:85-90(In Japanese).
17. Kobayashi, T., Masaoka, T., Nakayama, I., Yoshida, M., Tsukada, O., Saruwatari, T. (2004)
Estimation of the phylogenetic relationships of seahorse species based on mitochondrial 16S rRNA sequence data. *DNA Polymorphism*, **12**:74-78(In Japanese).
18. Konishi, K. (2003)
Miscellaneous techniques for studies of decapod larvae. (4)Electrical drawings of larvae. *Cancer*, **12**:37-41(In Japanese).
19. Konishi, K. (2004)
Miscellaneous techniques for studies of decapod larvae. (5)What we do after getting larval data. *Cancer*, **13**:39-43(In Japanese).
20. Kurita, J., Iida, E. (2003)
Viral hemorrhagic septicemia of Japanese flounder - the measure for preventing the disease -. *Aquanet*, **6**:60-66(In Japanese).
21. Kurokawa, T. and Pedersen, B.H. (2003)
The digestive system of eel larvae. *Eel Biology (eds. Aida, K., Tsukamoto, K. & Yamauchi, K., 497pp.)* 435-444.
22. Masaoka, T., Kobayashi, T. (2003)
Estimation of phylogenetic relationships in Pearl Oysters (Genus: *Pinctada*) based on

- 28SrRNA and ITS sequence. *DNA Polymorphism*, **11**:76-81(In Japanese).
23. Masaoka, T., Kobayashi, T. (2004)
DNA extraction method for organisms contain mocopolysaccharides. *DNA Polymorphism*, **12**:82-86(In Japanese).
24. Masaoka, T. and Kobayashi, T. (2004)
Polymerase chain reaction-based species identification of pearl oyster using nuclear ribosomal DNA internal transcribed spacer regions. *Fish Genetics and Breeding Science*, **33**:101-105.
25. Ohta, H. and Unuma, T. (2003)
Induction of sperm maturation. *Eel Biology (eds. Aida, K., Tsukamoto, K. & Yamauchi, K., 497pp.)* 415-423.
26. Okumura, T. (2004)
Perspectives on hormonal manipulation of shrimp reproduction. *JARQ-Japan Agricultural Research Quarterly* **38**(1):49-54.
27. Ototake M. (2004)
Recent progress in fish vaccinology. 1. Background of an increase of vaccine in aquaculture. *Aquanet*, **7**: 50-54(In Japanese).
28. Sakami, T. (2003)
Dynamics of bacterial community structure and hydrolytic enzyme activity in seawater in a red sea bream aquaculture area. *BrainTechno News*, **98**:17-20(In Japanese).
29. Sakami, T. (2003)
Organic matter cycling and bacterial roles in a red sea bream aquaculture area. *Gekkan Kansui*, **464**:16-20(In Japanese).
30. Suetake, H., Okubo, K., Yoshiura, Y. and Aida, K. (2003)
GTH and GnRH molecules and their expression in the Japanese eel. *Eel Biology (eds. Aida, K., Tsukamoto, K. & Yamauchi, K., 497pp.)* 351-372.
31. Tanaka, H. (2003)
Techniques for larval rearing. *Eel Biology (eds. Aida, K., Tsukamoto, K. & Yamauchi, K., 497pp.)* 427-434.
32. Tanaka, H. (2003)
The first success in production of juvenile eel from artificially fertilized egg. *AFJ* **34**:22-23(In Japanese).
33. Yokoyama, H., Abo, K. (2003)
Estimation of assimilative capacity of fish farms based on numerical model and macrobenthos. *Chouryu*, **35**:47-54(In Japanese).
34. Yokoyama, H., Abo, K. (2003)
Environmental quality criteria: measures in the "Law to Ensure Sustainable Aquaculture" and their potential problems. *Shokunokagaku*, **309**:14-21(In Japanese).
35. Yokoyama, H. (2004)
Assimilative capacity of fish farms estimated by using macrobenthos, chart and plaster balls. *Youshoku*, **41**:72-25(In Japanese).
36. Yoshimatsu, T. (2004)
Current Status of the World Aquaculture (Part I South Pacific). *Aquanet*, **7**:50-52(In Japanese).
37. Yoshimatsu, T. (2004)

Current Status of the World Aquaculture (Part II Southeast Asia). *Aquanet*, 7:54-56(In Japanese).

National Research Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea

38. Hiraoka, K., Sugimoto, K., Tamaki, H., Terawaki, T., Okada, M. (2003)
Changes in environmental factors and expansion of transplanted eelgrass (*Zostera marina* L.) bed by construction of breakwater. *Journal of Japan Society on Water Environment* **26**:849-854(In Japanese).
39. Hori, H., Kakuno, A., Morita, T., Ikeda, K., Yamada, H. (2004)
Changes in bioaccumulation of tributyltin chloride (TBTCl) in the tissues and organs of immature and maturing mummichogs (*Fundulus heteroclitus*). *Bulletin of Fisheries Research Agency* **11**:1-10 (In Japanese).
40. Hori, H., Kakuno, A., Morita, T., Ikeda, K., Yamada, H. (2004)
Bioconcentration and distribution of 4-tert-octylphenol in mummichogs (*Fundulus heteroclitus*) exposed during the maturation period. *Bulletin of Fisheries Research Agency* **11**:11-18 (In Japanese).
41. Ikeda, K., Yamada, H., Koyama, J. (2003)
Changes of organotin concentration in mussel (*Mytilus galloprovincialis*) by size, vertical habitat and season. *Journal of Environmental Chemistry* **13**(3):673-681(In Japanese).
42. Kitaguchi, T., Mitsutani, A., Nagasaki, K. (2003)
Recent studies on the application of microbes as agents for controlling harmful algal blooms. *Kaiyo Monthly (extra issue)* **35**:160-166(In Japanese).
43. Kono, N. (2003)
Fishing conditions of anchovy in the western Seto Inland Sea at the beginning of fishing season 2003. *News of FEIS (National Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea)* **10**:34-36(In Japanese).
44. Kono, K. (2004)
Bioaccumulation of organotin compounds through benthic food web in offshore water. *News of FEIS (National Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea)* **11**:2-4(In Japanese).
45. Matsuyama, Y. (2003)
Physiological and ecological studies on harmful dinoflagellate *Heterocapsa circularisquama* -II. Clarification on toxicity of *H. circularisquama* and its mechanisms causing shellfish kills. *Bulletin of Fisheries Research Agency* **9**:13-117 (In Japanese).
46. Mochida, K. (2003)
Effects of endocrine disrupting chemicals on expression of ubiquitin C-terminal hydrolase mRNA in testis of the Japanese common goby. *News of FEIS (National Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea)* **10**:5-7(In Japanese).
47. Nagasaki, K. (2004)
Countermeasures for red tide. *Textbook for the group training course in integrated management for coastal fisheries 2003 (Japan International Cooperation Agency)* 239-245.

48. Oka, S. (2003)
Species Composition and Abundance of Zooplankton in the Mangrove Waters of Okinawa, Japan. *The Cabinet Office of Japan. A Summary of the Mangrove Study in Okinawa (FY2000-2003)* 28-29.
49. Shigeta, T., Yoshikawa, K., Usuki, H., ishizu, T., Tokumura, M. (2003)
Fishes of Hiroshima Bay: appearances of rare fishes in the bay since 1994 and severe problems caused by some of them for humanity, fishery and the ecosystem. *Bulletin of the Japanese Society of Fisheries Oceanography* **67**(4):273-277 (In Japanese).
50. Shigeta, T. (2004)
The introduction of fishes of Hiroshima Bay: recent appearances of sub-tropical and warm-temperate fishes in the bay and severe problems caused by some of them. *News of FEIS (National Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea)* **11**:13-14 (In Japanese).
51. Tanaka, H. (2004)
Examination of the visual expressing method of PCB, PCDD and PCDF concentrations. *Journal of Environmental Chemistry* **14**(1):23-31 (In Japanese).
52. Tarutani, K. (2003)
Recent increase in water temperature in the Seto Inland Sea of Japan. *News of FEIS (National Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea)* **10**:11-12(In Japanese).
53. Tarutani, K., Iseki, K. (2003)
Present situation and problems of fisheries environments in the Seto Inland Sea of Japan. *Scientific forum of the Seto Inland Sea* **36**:12-17 (In Japanese).
54. Uchida, M. (2003)
Lactic acid fermentation of seaweed. *Kaiyo Monthly* **35**:270-279 (In Japanese).
55. Uchida, M., Sato, Y., Murata, M., Matsushima, R. (2004)
Characterization of the base collection strains preserved in the Marine Microorganism Division, a sub-bank of the Microbial Culture Collections, Fish. Research Agency. *Bull. Fish. Res. Agen* **11**:19-30.(In Japanese).
56. Ymagichi, M., Itakura, S. (2003)
Dormancy and germination characteristics of the cyst of toxic dinoflagellate *Alexandrium tamarense*. *Brain techno news* **99**:18-21 (In Japanese).
57. Yoshida, G., Yoshikawa, K., Terawaki, T. (2003)
Biannual maturation observed in forced seedling of *Sargassum horneri* (Phaeophyta, Fucales). *The Japanese journal of phycology* **51**:173-175(In Japanese).
58. Yoshida, G., Uchida, M. (2003)
Effect of "green tide" on coastal environment and utilization of Ulvaceous plants. *Scientific forum of the Seto Inland Sea* **36**:37-43(In Japanese).

Seikai National Fisheries Research Institute

59. Maeno, Y., de la Pena, L. D. Cruz-Lacierda, E.R. (2004)
Mass mortalities associated with viral nervous necrosis in hatchery-reared sea bass *Lates calcarifer* in the Philippines. *Japan Agricultural Research Quarterly* **38**:69-73.

60. Maeno, Y., de la Pena, L. D. Cruz-Lacierda, E.R. (2004)
Development of control methods of factors suppressing sustainable production of aquaculture species: Experimental transmission of viral nervous necrosis induced by piscine nodavirus to orange-spotted grouper *Epinephelus coioides*. *JIRCAS Working Report* **35**:89-94.
61. Shimizu, H., Shinozawa, S. (2004)
Allometry and development of caudal skeleton of hatchery-reared yellowfin tuna *Thunnus albacares*. *Bull. Fish. Res. Agen* **10**:1-7.(In Japanese).

Fisheries Stock Enhancement Department

62. Morita T. (2003)
Spawning and hatching of adult female snow crab *Chionoecetes opilio* under laboratory conditions. *Saibaigiken* **31** (1) :5-9.
63. Nakagawa M. (2004)
Stocking effectiveness of black rockfish *Sebastes schlegeli* released in Yamada bay evaluated by a fish market census. *Stock enhancement and sea ranching*:501-511.
64. Hotta T. (2003)
Current status and future issues in technical development of broodstock Management at Japan Sea-Farming Association. *Saibaigiken* **30** (2) :79-100.
65. Hotta T. (2003)
Removal operation of degenerated egg-mass and its effect on ovarian maturation in longtooth grouper, *Epinephelus bruneus*. *Saibaigiken* **31**(1):1-4.
66. Okumura S. (2003)
Variation in egg size spawned under different water temperatures in the red spotted grouper. *Suisanzousyoku* **51** (2):231-232.
67. Setladi E. (2003)
Effects of Water color and light intensity on water surface tension-related deaths in larval stage of the red-spotted grouper, *Epinephelus akaara*. *Suisanzousyoku* **51** (1) :81-85.
68. Teruya K. (2003)
Retention rate, feeding condition and predation of hatchery-reared juveniles of the coral trout, *Plectropomus leopardus* released on coral reefs in Urasoko bay, Ishigaki Island, southern Japan. *Suisanzousyoku* **51**(2):151-156.
69. Yamazaki H. (2003)
Reduction of mass mortality of juvenile spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* by supplementation of vitamin B1 in mass seed production. *Saibaigiken* **31** (1) :19-24.
70. Yosedo K. (2003)
Effects of different photoperiods on first-feeding success, early survival and digestive enzyme activities in coral trout *Plectropomus leopardus* larvae. *Suisanzousyoku* **51**(2):179-188.

Japan International Research Center for Agricultural Sciences

71. Ogata • Emata • Garibay • Furuita(2004)
Notable features of fatty acid composition in mangrove fish species. *JIRCAS Working Report* **35**:63-74.
72. Emata • Borlongan • Garibay • Ogata(2004)
Reproductive performance of the mangrove red snapper *Lutjanus argentimaculatus* fed broodstock diets. *JIRCAS Working Report* **35**:63-74.
73. Wilder, M.N. (2003)
Development of freshwater prawn seed production technology suitable for use in the Mekong Delta region of Vietnam. *JIRCAS News* **37**:4.
74. Wilder, M.N, Phuong, N.T. (2003)
Freshwater prawn culture technology development - A new dimension of the JIRCAS project in Vietnam. *APAARI Newsletter* **12**:12-13.
75. Wilder, M.N. (2003)
Development of freshwater prawn seed production and culture technology in the Mekong Delta region of Vietnam. *Farming Japan* **37**:41-43.
76. Wilder, M.N., Aida, K. (2004)
Vitellogenin structure, gene expression and its potential control in selected prawn species. *Trends in Comparative Endocrinology: Proceedings of the Fifth Congress of the Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology* 123-125.
77. Huong, D.T.T., Hang, B.T.B., Bui, T.V., Kaneko, T., Aida, K., Wilder, M.N. (2004)
Na/K-ATPase activity in the giant freshwater prawn *Macrobrachium rosenbergii* and larval rearing under low salinities in the Mekong Delta region of Vietnam. *Trends in Comparative Endocrinology: Proceedings of the Fifth Congress of the Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology* 194-196.
78. Jasmani, S., Jayasankar, V., Huong, D.T.T., Tsutsui, N., Wilder, M.N. (2004)
Regulation of egg hatching in the giant freshwater prawn, *Macrobrachium rosenbergii*. *Trends in Comparative Endocrinology: Proceedings of the Fifth Congress of the Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology* 360-362.
79. Jayasankar, V., Jasmani, S., Tsutsui, N., Aida, K., Wilder, M.N. (2004)
Effects of eyestalk ablation on gene expression and vitellogenin synthesis in juvenile giant freshwater prawn *Macrobrachium rosenbergii*. *Trends in Comparative Endocrinology: Proceedings of the Fifth Congress of the Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology* 455-457.

**(Notes : This list doesn't include articles contained in online database
such as PubMed, Biosis, and Web of Science.)**

**Articles (150 articles related aquaculture) published from Fisheries Research
Agency (From September 2003 to August 2004)**

- Adachi, M., Kanno, T., Okamoto, R., Itakura, S., Yamaguchi, M., Nishijima, T. (2003) Population structure of *Alexandrium* (Dinophyceae) cyst formation-promoting bacteria in Hiroshima Bay, Japan. *Appl. Environ. Microbiol.* **69**(11):6560-6568.
- Amano, M., Iigo M., Ikuta K., Kitamura S., and Yamamori K. (2003) Daily variations in melatonin binding sites in the masu salmon brain. *Neuroscience Letters* **350**:9-12.
- Amano, M., Iigo M., Ikuta K., Kitamura S., and Yamamori K. (2003) Characterization and maturational differences of melatonin binding sites in the masu salmon brain. *General Comparative Endocrinology* **131**:338-344.
- Amano, M., Iigo, M., Ikuta, K., Kitamura, S., Okuzawa, K., Yamada, H., and Yamamori, K. (2004) Disturbance of plasma melatonin profile by high dose melatonin administration inhibits testicular maturation of precocious male masu salmon. *Zoological Science* **21**:79-85.
- Amores, A., Suzuki, T., Yan, YL., Pomeroy, J., Singer, A., Amemiya, C., Postlethwait, JH. (2004) Developmental roles of pufferfish Hox clusters and genome evolution in ray-fin fish. *Genome Research* **14**(1):1-10.
- Arai, D. (2004) Relationship between mass mortality of megalops and morphogenesis of zoeas in the seed production of swimming crab *Portunus trituberculatus* (Barchyura: Portunidae). *Nippon suisan Gakkaishi* **70**(4):567-572.
- Aritaki, M. (2003) Morphological development and growth of laboratory-reared slime flounder *Microstomus achne*. *Nippon suisan Gakkaishi* **69**:602-610.
- Aritaki, M. (2004) Temperature effects on larval development and occurrence of metamorphosis-related morphological abnormalities in hatchery-reared spotted halibut *Verasper variegatus* juveniles. *Nippon suisan Gakkaishi* **70**:8-15.
- Asahida, T., Shinotsuka, Y., Saitoh, K., Tsuzuki, T., Aritaki, M., and Yamashita, Y. (2004) Parental contributions in a Japanese flounder hatchery inferred from mitochondrial DNA haplotypes. *J. World Aquacult Soc.* **35**:199-208.
- Asanuma, H., Ohashi, H., Matsubara, H., Ijiri, S., Matsubara, T., Todo, T., Adachi, S., Yamauchi, K. (2003) 11-ketotestosterone potentiates estrogen-induced vitellogenin production in liver of Japanese eel (*Anguilla japonica*). *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):383-384.
- Awaji, M. and Hamano K. (2004) Gonad formation, sex differentiation and gonad maturation processes in the artificially produced juveniles of the abalone, *Haliotis discus hannai*. *Aquaculture* **239**:397-411.
- Azuma, T., Noda, S., Yada, T., Nakanishi, T., Ototake, M., Nagoya, H., Moriyama, S., Yamada, H., Iwata, M. (2003) Effects of the rearing system water current on growth and swimming ability of masu salmon *Oncorhynchus masou masou*. *American Fisheries Society Symposium* **38**:111-125.
- Catap, E. S., Lavilla-Pitogo, C. R., Maeno, Y. and Travina, R. D. (2003) Occurrence, histopathology and experimental transmission of hepatopancreatic parvovirus infection in *Penaeus monodon* post larvae. *Dis. Aquat. Org.* **36**:11-17.
- Chow, S., Akadate, M. (2004) PCR primers for fish G6PD gene intron and characterization of

- intron length variation in the albacore *Thunnus alalunga*. *Mol. Ecol. Notes* **4**:391-393.
- Cruz-Lacierda, E.R., Maeno, Y., Pineda, A. J. T. and Matey, V. E. (2004) Mass mortality of hatchery-reared milkfish (*Chanos chanos*) and mangrove red snapper (*Lutjanus argenrimaculatus*) caused by *Amyloodinium ocellatum* (Dinoflagellida). *Aquaculture* **236**:85-94.
- Dijkstra, JM. Kiryu, I. Köllner, B. Yoshiura, Y. Ototake, M. (2003) MHC class II invariant chain homologues in rainbow trout (*Oncorhynchus mykiss*). *Fish Shellfish Immunol.* **15**:91-105.
- Emura, A., Oda, T., Matsuyama, Y. (2004) Evidence for the proteinaceous hemolytic exotoxin by dinoflagellate *Alexandrium taylori*. *Harmful Algae* **3**(1):29-37.
- Fujihara, J., Kunito, T., Kubota, R., Tanaka, H., Tanabe, S. (2004) Arcenic accumulation and distribution in tissues of black-footed albatrosses. *Marine Pollution Bulletin* **48**:1153-1160.
- Fukushi, A., Imamura, T., Takahashi, H., Itabashi, Y., Suzuki, T. (2003) Increase of the free fatty acids in the hepatopancreas of scallops kept in freezer. *Fisheries Science* **69**(5):1081-1083.
- Furuita, H., Ohta, H., Unuma, T., Tanaka, H., Kagawa, H., Suzuki, N., Yamamoto, T. (2003) Biochemical composition of eggs in relation to egg quality in the Japanese eel, *Anguilla japonica*. *Fish Physiology and Biochemistry* **29**(1):37-46.
- Gen, K., Yamaguchi, S., Okuzawa, K., Kumakura, N., Tanaka, H., Kagawa, H. (2003) Physiological roles of FSH and LH in red seabream, *Pagrus major*. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):77-80.
- Gen, K., Yamaguchi, S., Okuzawa, K., Tanaka, H., and Kagawa, H. (2003) Baculovirus-mediated production of the red seabream FSH and LH in silkworm larvae. *Zoological Science* **20**:1603-1603.
- Haga, Y. (2004) VitaminD3 compounds induce hypermelanosis on the blind side and vertebral deformity in juvenile Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Fisheries Science* **70**:59-67.
- Hamano, K. and Awaji M. (2004) Novel member of the PAR domain bZIP gene family isolated from Pacific oyster, *Crassostrea gigas*. *DNA sequence* **15**:174-179.
- Hamasaki, K. (2003) Advanced Techniques for Reliable Seed Production in Portunid Crabs. *Nippon suisan Gakkaishi* **69**(5):701-704.
- Hamasaki, K. (2003) Egg development and incubation period of the swimming crab *Portunus trituberculatus* (Decapoda: Portunidae) reared in the laboratory. *Crustacean Research* **32**:45-54.
- Hamasaki, K. (2004) Effects of acclimation to the natural environment before release on retention rate, feeding condition and predation of hatchery-reared juveniles of the coral trout *Plectropomus leopardus* released on a coral reef. *Nippon suisan Gakkaishi* **70**(1):22-30.
- Hanamura, Y., Matsuoka, M. (2003) Feeding habits of the sand shrimp, *Crangon uritai* Hayashi & Kin, 1999 in the Seto Inland Sea, Japan. *Crustaceana* **76**:1017-1024.
- Hashimoto, H., Rebagliati, M., Ahmad, N., Muraoka, O., Kurokawa, T., Hibi, M., Suzuki, T. (2004) The Cerberus/Dan-family protein Charon is a negative regulator of Nodal signaling during left-right patterning in zebrafish. *Development* **131**(8):1741-1753.

- Hiramatsu, N., Hara, A., Matsubara, T., Hiramatsu, K., Sullivan, CV. (2003) Oocyte growth in temperate basses: multiple forms of vitellogenin and their receptor. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):301-303.
- Hiramatsu, K., Hiramatsu, N., Hara, A., Matsubara, T., Sullivan, CV. (2003) Multiple vitellogenins in white perch (*Morone americana*). *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):347-348.
- Hoshiai, G., Suzuki, T., Kamiyama, T., Yamasaki, M., Ichimi, K. (2003) Water temperature and salinity during the occurrence of *Dinophysis fortii* and *D. acuminata* in Kesenuma Bay, northern Japan. *Fisheries Science* **69**(6):1303-1305.
- Huruita, H., Ohta, H., Unuma, T., Tanaka, H., Kagawa, H., Suzuki, N. and Yamamoto, T. (2003) Biochemical compositions of eggs in relation to egg quality in the Japanese eel, *Anguilla japonica*. *Fish Physiology & Biochemistry* **29**:37-46.
- Ichikawa, T. (2004) Egg size and relationship between seawater temperature and egg incubation period of the red frog crab *Ranina ranina* (Decapoda: Raninidae) reared in the laboratory. *Nippon suisan Gakkaishi* **70**(3):343-347.
- Iguchi, K., Yamamoto, G., Matsubara, N., Nishida, M. (2003) Morphological and genetic analysis of fish of a *Carassius* complex (Cyprinidae) in Lake Kasumigaura with reference to the taxonomic status of two all-female triploid morphs. *Biological Journal of the Linnean Society* **79**:351-357.
- Iida, T. (2003) Current status and prospects of development of fish vaccines. *Fish Pathology* **38**(4):196-196.
- Imai, H., Cheng, JH., Hamasaki, K., Numachi, K. (2004) Identification of four mud crab species (genus *Scylla*) using ITS-1 and 16S rDNA markers. *Aquatic Living Resources* **17**(1):31-34.
- Ishii, S., Yoshiura, Y., Kajimura, S., Mochioka, N., Aida, K. (2003) Gonadal development and expression profiles of gonadotropin genes in wild sea conger, *Ariosoma meeki*. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):95-96.
- Ito, F., Yamasaki, T., Yamaguchi, M., Nagae, M., Soyano, K. (2003) Influence of the spawning environment on final maturation and spawning in Japanese dace, *Tribolodon hakonensis*. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):417-418.
- Kamei, H., Oohira, T., Yoshiura, Y., Uchida, N., Nagasawa, H. and Aida, K. (2003) Expression of a biologically active recombinant follicle stimulating hormone of Japanese eel *Anguilla japonica* using methylotropic yeast, *Pichia pastoris*. *General & Comparative Endocrinology* **134**:244-254.
- Kamisaka, Y., Fujii, Y., Yamamoto, S., Kurokawa, T., Ronnestad, I., Totland, GK., Tagawa, M., Tanaka, M. (2003) Distribution of cholecystokinin-immunoreactive cells in the digestive tract of the larval teleost, ayu, *Plecoglossus altivelis*. *General and Comparative Endocrinology* **134**(2):116-121.
- Kamimoto, M., Suzuki, T., Ito, M., Miyake, A., Nakatsuji, N. and Nakatsuji, T. (2003) Unequal distribution of otx1 mRNAs among cleavage stage blastomeres in the teleost, *Leucopsarion petersii* (shiro-uo). *International Journal of Developmental Biology* **47**:77-80.
- Katano, O., Aonuma, Y., Iguchi, K., Yodo, T., Matsubara, N. (2003) Difference in response by two cyprinid species to predatory threat from the nocturnal catfish *Silurus asotus*. *Ichthyological Research* **50**:349-357.

- Katano, O., Aonuma Y., Nakamura, T. and Yamamoto, S. (2003) Indirect contramensalism through trophic cascades between two omnivorous fishes. *Ecology* **84**(5):1311-1323.
- Katano, O., Hosoya, K., Iguchi, K., Yamaguchi, M., Aonuma, Y., Kitano, S. (2003) Species diversity and a bundance of freshwater fishes in irrigation ditches around rice field. *Environmental Biology of Fishes* **66**:107-121.
- Katano, O., Nakamura, T. and Yamamoto, S. (2003) Comparison of consumption of bluegill by far eastern catfish and largemouth bass. *Fisheries Science* **69**:989-994.
- Katano, O., Uchida, K., Aonuma, Y. (2004) Experimental analysis of the territorial establishment of ayu, *Plecoglossus altivelis*. *Ecological Research* **19**:433-444.
- Kawanishi, M., Kojima, A., Ishihara, K., Esaki, H., Takahashi, T., Suzuki, S., Hiron, I., Iida, T., Aoki, T., Tamura, Y. (2004) Quality control ranges of minimum inhibitory concentrations for *Lactococcus garvieae* and *Photobacterium damsela* subsp. piscicida. *Fish Pathology* **39**(2):111-114.
- Kim, DI, Matsuyama, Y., Nagasoe, S., Yamaguchi, M., Yoon, YH., Oshima, Y., Imada, N., Honjo, T. (2004) Effects of temperature, salinity and irradiance on the growth of the harmful red tide dinoflagellate *Cochlodinium polykrikoides* Margalef (Dinophyceae). *J. Plankton Res.* **26**(1):61-66.
- Kimura-Yoshida, C., Kitajima, K., Oda-Ishii, I., Tian, E., Suzuki, M., Yamamoto, M., Suzuki, T., Kobayashi, M., Aizawa, S., Matsuo, I. (2004) Characterization of the pufferfish Otx2 cis-regulators reveals evolutionarily conserved genetic mechanisms for vertebrate head specification. *Development* **131**(1):57-71.
- Kiryu, I. Köllner, B. Kuroda, A. Ototake, M. Dijkstra, JM. (2003) A new putative G-protein coupled receptor gene associated with the immune system of rainbow trout (*Oncorhynchus mykiss*). *Fish Shellfish Immunol.* **15**:117-127.
- Kiryu, I. Yoshiura, Y. Azuma, T. Kollner, B. Ototake, M. (2003) The MHC class I linkage group is a major determinant in the in vivo rejection of allogeneic erythrocytes in rainbow trout (*Oncorhynchus mykiss*). *Immunogenetics* **55**:315-324.
- Komai, T. and Konishi, K. (2003) Further note on *Propagurus miyakei* (Baba, 1986) (Decapoda: Anomura: Paguridae), with description of its first zoea. *Bulletin of Marine Science* **72**:853-869.
- Kono, N., Tsukamoto, Y., Zenitani, H. (2003) RNA:DNA ratio for diagnosis of the nutritional condition of Japanese anchovy *Engraulis japonicus* larvae during the first-feeding stage. *Fisheries Science* **69**(6):1094-1100.
- Koya, Y. (2003) Testicular development and serum steroid hormone levels in captive male spotted halibut *Verasper variegatus*. *Fisheries Science* **69**:792-798.
- Koya, Y. (2004) Serum 17, 20 β dihydroxy-4pregnen-3-one level in pregnant and non-pregnant female rockfish, *Sebastes schlegeli*, viviparous teleost, and its production by post-ovulatory follicles. *Zoological Science* **21**:565-573.
- Koyama, J., Kakuno, A. (2004) Toxicity of heavy fuel oil, dispersant and oil-dispersant mixtures to marine fish *Pagrus major*. *Fisheries Science* **70**(4):587-594.
- Kudo, H., Amizuka, N., Inohaya, K., Araki, K. and Kudo, A. (2004) Zebrafish periostin is required for the adhesion of muscle fiber bundles to the myoseptum and for the differentiation of muscle fibers. *Developmental Biology* **267**: 473-487.
- Kumagai, A., Nakayasu, C., Oseko, N. (2004) Effect of tobramycin supplementation to medium on isolation of *Flavobacterium psychrophilum* from ayu *Plecoglossus altivelis*.

- Fish Pathology* **39**(2):75-78.
- Kumakura, N., Okuzawa, K., Yamaguchi, S., Gen, K., Lim, BS., Kagawa, H. (2003) Effects of gonadotropin-releasing hormone agonist and testosterone on gonadotropin subunit gene expression in female red seabream (*Pagrus major*). *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):99-100.
- Kurita, Y. (2004) Energetics of reproduction and spawning migration for Pacific saury (*Cololabis saira*). *Fish Physiol. Biochem.* **28**:271-272.
- Kurokawa, T., Iinuma, N., Unuma, T., Tanaka, H., Kagawa, H., Ohta, H., Suzuki, T. (2004) Development of endocrine system regulating exocrine pancreas and estimation of feeding and digestive ability in Japanese eel larvae. *Aquaculture* **234**(1-4):513-525.
- Kurokawa, T., Uji, S. and Suzuki, T. (2004) Molecular cloning of multiple chitinase genes in Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*. *Comparative Biochemistry & Physiology Part B* **138**:255-264.
- Liang, XF., Ogata, HY., Oku, H., Chen, JW., Hwang, F. (2003) Abundant and constant expression of uncoupling protein 2 in the liver of red sea bream *Pagrus major*. *Comparative Biochemistry and Physiology A-Molecular & Integrative Physiology* **136**(3):655-661.
- Lim, BS., Kagawa, H., Gen, K., Okuzawa, K. (2003) Effects of water temperature on the gonadal development and expression of steroidogenic enzymes in the gonad of juvenile red seabream, *Pagrus major*. *ish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):161-162.
- Makino, M., Yoshida, T., Sakano, H., Ban, S. (2003) Stay cool: habitat selection of cyclopoid copepod in a north temperate oligotrophic lake. *Freshwater Biology* **48**:1551-1562.
- Matsubara, T., Nagae, M., Ohkubo, N., Andoh, T., Sawaguchi, S., Hiramatsu, N., Sullivan, CV., Hara, A. (2003) Multiple vitellogenins and their unique roles in marine teleosts. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):295-299.
- Matsunari, H. (2003) Changes in the taurine content during the early growth stages of artificially produced yellowtail compared with wild fish. *Nippon suisan Gakkaishi* **69**(5):757-762.
- Matsuoka, K., Joyce, LB., Kotani, Y., Matsuyama, Y. (2003) Modern dinoflagellate cysts in hypertrophic coastal waters of Tokyo Bay, Japan. *Journal of Plankton Research* **25**(12):1461-1470.
- Matsuyama, Y., Oda, T., Honjo, T. (2004) Production of superoxide anion and hydrogen peroxide by the red tide dinoflagellate *Karenia mikimotoi*. *Journal of Bioscience and Bioengineering* **97**(3):212-215.
- Mihelakakis, A., Tsolkas, C., Yoshimatsu, T. (2004) Optimization of *Artemia metanauplii* on growth and survival of gilthead sea bream larvae *Sparus aurata*. *Journal of the World Aquaculture Society* **35**(1):87-93.
- Mitsui, S., Iida, T., Yoshida, T., Hirono, I., Aoki, T. (2004) PCR-based detection of the causative agent of bacterial hemolytic jaundice in yellowtail. *Fish Pathology* **39**(1):43-45.
- Miwa, S., Nakayasu, C., Kamaishi, T., Yoshiura, Y. (2004) X-cells in fish pseudotumors are parasitic protozoans. *Diseases of Aquatic Organisms* **58**(2-3):165-170.
- Mochida, K., Fujii, K., Kakuno, A., Matsubara, T., Ohkubo, N., Adashi, S., Yamauchi, K. (2003) Expression of ubiquitin C-terminal hydrolase is ewgulated by estradiol-17 β intestis and brain of the Japanese commpn gobby. *Fish Physiology and*

- Biochemistry* **28**:435-436.
- Mori, H. (2003) Annual reproductive cycle of black rockfish *Sebastes schlegeli*, in captivity. *Fisheries Science* **69**:908-921.
- Nagae, M., Okunaga, M., Hidaka, R., Ohkubo, N., Matsubara, T. (2003) Molecular cloning of sex hormone-binding globulin cDNA in carp, *Cyprinus carpio*. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):215-216.
- Nagai, S., Itakura, S., Matsuyama, Y., Kotani, Y. (2003) Encystment under laboratory conditions of the toxic dinoflagellate *Alexandrium tamiyavanichii* (Dinophyceae) isolated from the Seto Inland Sea, Japan. *Phycologia* **42**(6):646-653.
- Nagai, S., Lian, C., Hamaguchi, M., Matsuyama, Y., Itakura, S., Hogetsu, T. (2004) Development of microsatellite markers in the toxic dinoflagellate *Alexandrium tamarense* (Dinophyceae). *Molecular Ecology Note* **4**(1):83-85.
- Nagai, T., (2003) Recovery of fish stocks in the Seto Inland Sea. *Marine Pollution Bulletin* **47**(1-6):126-131.
- Nagasaki, K., Tomaru, Y., Katanozaka, N., Shirai, Y., Nishida, K., Itakura, S., Yamaguchi, M. (2004) Isolation and Characterization of a Novel Single-Stranded RNA Virus Infecting the Bloom-Forming Diatom *Rhizosolenia setigera*. *Appl. Environ. Microbiol.* **70**(2):704-711.
- Nagasaki, K., Tomaru, Y., Nakanishi, K., Hata, N., Ktanozaka, N., Yamaguchi, M. (2004) Dynamics of *Heterocapsa circularisquama* (Dinophyceae) and its viruses in Ago Bay, Japan. *Aquat. Microb. Ecol.* **34**(3):219-226.
- Nakagawa, M. (2004) Individually specific seasonal cycles of embryonic development in cultured broodstock females of the black rockfish, *Sebastes schlegeli*. *Aquaculture* **233**:549-559.
- Nakamura, T. (2003) Meristic and morphometric variations in fluvial Japanese charr between river systems and among tributaries of a river system. *Environmental Biology of Fishes* **66**:133-141.
- Nanami, A. (2003) Effects of habitat connectivity on the abundance and species richness of coral reef fishes: comparison of an experimental habitat established at a rocky reef flat and a sandy sea bottom. *Environmental Biology of Fishes* **68**:183-196.
- Nishikawa, A., Katoh, M., Sakai, K. (2003) Larval settlement rates and gene flow of broadcast-spawning (*Acropora tenuis*) and planula-brooding (*Stylophora pistillata*) corals. *Marine Ecology-Progress Series* **256**:87-97.
- Nomura, K., Nakajima, J., Ohta, H., Kagawa, H., Tanaka, H., Unuma, T., Yamauchi, K., Arai, K. (2004) Induction of triploidy by heat shock in the Japanese eel *Anguilla japonica*. *Fisheries Science* **70**(2):247-255.
- Oh, S.J., Matsuyama, Y., Oda, S., Moriyama, T., Uchida, T. (2003) Environmental feature causing a bloom of the novel dinoflagellate *Heterocapsa circularisquama* (Dinophyceae) in Uranouchi Bay, Kochi Prefecture, Japan. *Algae* **18**(4):1-10.
- Ohara, E. (2003) Isolation and characterization of microsatellite loci from yellowtail *Seriola quinqueradiata* and cross-species amplification within the genus *Seriola*. *Molecular Ecology Notes* **3**:390-391.
- Ohkubo, N., Andoh, T., Mochida, K., Adachi, S., Hara, A., Matsubara, T. (2004) Deduced primary structure of two forms of vitellogenin in Japanese common goby (*Acanthogobius flavimanus*). *General and Comparative Endocrinology* **137**(1):19-28.

- Ohkubo, N., Mochida, K., Adachi, S., Hara, A., Hotta, K., Nakamura, Y., Matsubara, T. (2003) Development of enzyme-linked immunosorbent assays for two forms of vitellogenin in Japanese common goby (*Acanthogobius flavimanus*). *General and Comparative Endocrinology* **131**:353-364.
- Ohkubo, N., Mochida, K., Adachi, S., Hara, A., Hotta, K., Nakamura, Y., Matsubara, T. (2003) Estrogenic activity in coastal areas around Japan evaluated by measuring male serum vitellogenins in Japanese common goby *Acanthogobius flavimanus*. *Fisheries Science* **69**:1135-1145.
- Ohta, H., Higashimoto, Y., Koga, S., Unuma, T., Nomura, K., Tanaka, H., Kagawa, H., Arai, K. (2003) Occurrence of spontaneous polyploids from the eggs obtained by artificial induction of maturation in the Japanese eel (*Anguilla japonica*). *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):517-518.
- Okumura, S. (2003) Comparison of two types of artificial nursery test reef by experiment of releasing juvenile red spotted grouper *Epinephelus akaara* under natural conditions. *Nippon suisan Gakkaishi* **69** (1):57-64.
- Okumura, T. (2003) Relationship of ovarian and marsupial development to the female molt cycle in *Acanthomysis robusta* (Crustacea : Mysida). *Fisheries Science* **69**(5):995-1000.
- Okumura, T., Hara, M. (2004) Androgenic gland cell structure and spermatogenesis during the molt cycle and correlation to morphotypic differentiation in the giant freshwater prawn, *Macrobrachium rosenbergii*. *Zoological Science* **21**(6):621-628.
- Okumura, T., Kamba, M., Sonobe, H., Aida, K. (2003) In vitro secretion of ecdysteroid by Y-organ during molt cycle and evidence for secretion of 3-dehydroecdysone in the giant freshwater prawn, *Macrobrachium rosenbergii* (Crustacea:Decapoda:Caridea). *Invertebrate Reproduction & Development* **44**(1):1-8.
- Okumura, T., Nagai, F., Yamamoto, S., Yamano, K., Oseko, N., Inouye, K., Oomura, H., Sawada, H. (2004) Detection of white spot syndrome virus from stomach tissue homogenate of the kuruma shrimp (*Penaeus japonicus*) by reverse passive latex agglutination. *Journal of Virological Methods* **119**(1):11-16.
- Okumura, T., Sakiyama, K. (2004) Hemolymph levels of vertebrate-type steroid hormones in female kuruma prawn *Marsupenaeus japonicus* (Crustacea : Decapoda : Penaeidae) during natural reproductive cycle and induced ovarian development by eyestalk ablation. *Fisheries Science* **70**(3):372-380.
- Okumura, Y., Koyama, J., Uno, S. (2003) The relationship between logPow and molecular weight of polycyclic aromatic hydrocarbons and EC50 values of marine microalgae. *La mer* **41**(4):182-191.
- Okumura, Y., Yamashita, Y., Isagawa, S. (2004) Concentrations of polychlorinated dibenzo-p-dioxins, dibenzofurans, non-ortho polychlorinated biphenyls, and mono-ortho polychlorinated biphenyls in Japanese flounder, with reference to the relationship between body length and concentration. *J Environ Monit.* **6**(3):201-218.
- Okumura, Y., Yamashita, Y., Kohno, Y., Nagasaka, H. (2004) Historical trends of PCDD/Fs and CO-PCBs in a sediment core collected in Sendai Bay, Japan. *Wat. Res.* **38**(16):3511-3522.
- Okunaga, M., Matsubara, T., Ohkubo, N., Nagae, M. (2003) Steroid-binding characteristics of sex hormone-binding globulin (SHBG) in carp, *Cyprinus carpio*. *Fish Physiology and*

- Biochemistry* **28**(1-4):219-220.
- Okuzawa, K., Kumakura, N., Gen, K., Yamaguchi, S., Lim, B.S., Kagawa, H. (2003) Effect of high water temperature on brain-pituitary-gonad axis of the red seabream during its spawning season. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):439-440.
- Osman, S., Sekino, M., Nishibori, M., Kawamoto, Y., Kinoshita, K., Yamamoto, Y., Tsudzuki, M. (2004) Genetic variability and relationships of Japanese native chickens assessed by means of microsatellite profiling approach-focusing on the Oh-Shamo (Japanese Large Game) and its related breeds. *J. Poult. Sci.* **41**:94-109.
- Patel, A.B., Yakupitiyage, A. (2003) Mixed feeding schedules in semi-intensive pond culture of Nile tilapia, *Oreochromis niloticus*, L.: is it necessary to have two diets of differing protein contents? *Aquaculture Research* **34**(14):1343-1352.
- Rhaman, M.H., Ototake, M. and Nakanishi, T. (2003) Water soluble adjuvants enhance the protective effect of *Flavobacterium psychrophilum* vaccines in ayu *Plecoglossus altivelis*. *Fish Pathology* **38**:171-176.
- Sadamoto, H., Sato H., Kobayashi S, Murakami J., Aonuma H, Ando H, Fijito Y, Hamano K, Awaji M, Lukowiak K, Urano A, and Ito E. (2004) CREB in the pond snail *Lymnaea stagnalis*: Cloning, gene expression, and function in identifiable neurons on the central nervous system. *J. Neurobiol.* **58**:455-466.
- Spedersen, B.H., Ueberschar, B. and Kurokawa, T. (2003) Digestive response and rates of growth in pre-leptocephalus larvae of the Japanese eel *Anguilla japonica* reared on artificial diets. *Aquaculture* **215**:321-338.
- Sato, M., Kudo, Y., Kitamura, S., Ikuta, K., and Azuma, T. (2003) A neuroethological study of homestream selection behavior in the hime salmon (land-locked sockeye salmon, *Oncorhynchus nerka*). *Comp. Biochem. Physiol. Part B* **136**:565-566.
- Sawaguchi, S., Koya, Y., Matsubara, T. (2003) Deduced primary structures of three types of vitellogenin in mosquitofish (*Gambusia affinis*), a viviparous fish. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):363-364.
- Sekino, M. (2003) Family growth performance in a hatchery strain of Japanese flounder assessed by means of microsatellite profiling technique: an implication to hatchery management related to stock enhancement program. *Aquaculture* **221**:255-263.
- Sekino, M., Sugaya, T., Hara, M., Taniguchi, N. (2004) Relatedness inferred from microsatellite genotypes as a tool for broodstock management of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Aquaculture* **233**:163-172.
- Shimizu, A., Kagawa, H., Tanaka, H. (2003) Immunocytochemical identification of gonadotrophs (FSH cells and LH cells) in various perciform fishes using antisera raised against synthetic peptides. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):109-110.
- Shinoda, A., Tanaka, H., Kagawa, H., Ohta, H., Tsukamoto, K. (2004) Otolith micro structural analysis of reared larvae of the Japanese eel *Anguilla japonica*. *Fisheries Science* **70**(2):339-341.
- Sola, L., Gornung, E., Naoi, H., Gunji, R., Sato, C., Kawamura, K., Arai, R., Ueda, T. (2003) FISH-mapping of 18S ribosomal RNA genes and telomeric sequences in the Japanese bitterlings *Rhodeus ocellatus kurumeus* and *Tanakia limbata* (Pisces, Cyprinidae) reveals significant cytogenetic differences in morphologically similar karyotypes. *Genetica* **119**(1):99-106.
- Somamoto, T., Sato, A., Nakanishi, T., Ototake, M. and Okamoto, N. (2004) Specific

- cytotoxic activity generated by mixed leucocyte culture in gimbuna crucian carp. *Fish & Shellfish Immunology* **17**:187-191.
- Srivastava, A.S., Oohara, I., Suzuki, T., Shenouda, S., Singh, S.N., Chauhan, D.P., Carrier, E. (2004) Purification and properties of cytosolic alanine aminotransferase from the liver of two freshwater fish, *Clarias batrachus* and *Labeo rohita*. *Comparative Biochemistry and Physiology Part B* **137**:197-207.
- Sudo, H. (2003) Effect of temperature on growth, sexual maturity and reproduction on *Acanthomysis robusta* (Crustacea: Mysidacea) reared in the laboratory. *Marine Biology* **143** (6):1095-1107.
- Suzuki, N., Yamamoto, K., Sasayama, Y., Suzuki, T., Kurokawa, T., Kambegawa, A., Srivastava, A.K., Hayashi, S., Kikuyama, S. (2004) Possible direct induction by estrogen of calcitonin secretion from ultimobranchial cells in the goldfish. *General and Comparative Endocrinology* **138**(2):121-127.
- Suzuki, T., Haga, Y., Takeuchi, T., Uji, S., Hashimoto, H., Kurokawa, T. (2003) Differentiation of chondrocytes and scleroblasts during dorsal fin skeletogenesis in flounder larvae. *Development Growth & Differentiation* **45**(5-6):435-448.
- Takagi, M., Chow, S., Okamura, T., Scholey, V. P., Nakazawa, A., Margulies, D., Wexler, J. B., Taniguchi, N. (2003) Mendelian inheritance and variation of four microsatellite DNA markers in the yellowfin tuna *Thunnus albacares*. *Fisheries Science* **69**:1306-1308.
- Takami, H., Muraoka, D., Kawamura, T., Yamashita, Y. (2003) When is the abalone *Haliotis discus hannai* Ino 1953 first able to use brown macro algae? *J. Shellfish Res.* **22**(3):795-800.
- Tanabe, S., Watanabe, M., Minh, T.B., Kunisue, T., Nakanishi, S., Ono, H., Tanaka, H. (2004) PCDDs, PCDFs, and coplanar PCBs in albatross from the North Pacific and Southern Oceans: Levels, patterns, and toxicological implications. *Environ. Sci. Technol.* **38**(2):403-413.
- Tanaka, H., Kagawa, H., Ohta, H., Unuma, T., Nomura, K. (2003) The first production of glass eel in captivity: fish reproductive physiology facilitates great progress in aquaculture. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):493-497.
- Tarutani, K., Niimura, Y., Uchida, T. (2004) Short-term uptake of dissolved organic nitrogen by an axenic strain of *Ulva pertusa* (Chlorophyceae) using ¹⁵N isotope measurements. *Botanica Marina* **47**(3):248-250.
- Tomaru, Y., Katanozaka, N., Nishida, K., Shirai, Y., Tarutani, K., Yamaguchi, M., Nagasaki, K. (2004) Isolation and characterization of two distinct types of HcRNAV, a single-stranded RNA virus infecting the bivalve-killing microalga *Heterocapsa circularisquama*. *Aquatic Microbial Ecology* **34**(3):207-218.
- Tomaru, Y., Nagasaki, K. (2004) Widespread occurrence of viruses lytic to the bivalve-killing dinoflagellate *Heterocapsa circularisquama* in the western coast of Japan. *Plankton Biol. Ecol.* **51**(1):1-6.
- Tomaru, Y., Tarutani, K., Yamaguchi, M., Nagasaki, K. (2004) Quantitative and qualitative impacts of viral infection on a *Heterosigma akashiwo* (Raphidophyceae) bloom in Hiroshima Bay, Japan. *Aquatic Microbial Ecology* **34**(3):227-238.
- Tomoda, T. (2004) Dietary value of marine rotifer *Brachionus plicatilis* in different population growth stages for larval red seabream *Pagrus major*. *Nippon suisan Gakkaishi* **70**(4):573-582.

- Tsutsumi, N., Yoshinaga, T., Kamaishi, T., Nakayasu, C. and Ogawa, K. (2003) Effects of water temperature on the development of the monogenean *Neoheterobothrium hirameon* Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Fish Pathology* **38**:41-47.
- Uchida, K., Yoshikawa-Ebesu, Kajimura, S., Yada, T., Hirano, T., Grau, E.G. (2004) Effects of cortisol on release and gene expression of prolactin and growth hormone in the tilapia, *Oreochromis mossambicus*. *Gen. Comp. Endocrinol.* **135**: 116-125.
- Ueno, D., Inoue, S., Ikeda, K., Tanaka, H., Yamada, H., Tanabe, S. (2003) Specific accumulation of polychlorinated biphenyls and organochlorine pesticides in Japanese common squid as a bioindicator. *Environ. Pollut.* **125**:227-235.
- Ueno, D., Inoue, S., Takahashi, S., Ikeda, K., Tanaka, H., Subramanian, AN., Fillmann, G., Lam, PKS., Zheng, J., Muchtar, M., Prudente, M., Chung, K., Tanabe, S. (2004) Global pollution monitoring of butyltin compounds using skipjack tuna as a bioindicator. *Environ. Pollut.* **127**:1-12.
- Ueno, D., Kajiwara, N., Tanaka, H., Subramanian, A., Fillmann, G., Lam, PKS., Zheng, GJ., Muchitar, M., Razak, H., Prudente, M., Chung, KH., Tanabe, S. (2004) Global pollution monitoring of polybrominated diphenyl ethers using skipjack tuna as a bioindicator. *Environ. Sci. Technol.* **38**(8):2312-2316.
- Ueno, D., Takahashi, S., Tanaka, H., Subramanian, AN., Fillmann, G., Nakata, H., Lam, PKS., Zheng, J., Muchtar, M., Prudente, M., Chung, KH., Tanabe, S. (2003) Global pollution monitoring of PCBs and organochlorine pesticides using skipjack tuna as a bioindicator. *Arch. Environ. Contam. Toxicol.* **45**:378-389.
- Wada, T. (2004) Effects of low-salinity on the growth and development of spotted halibut *Verasper variegatus* in the larva-juvenile transformation period with reference to pituitary prolactin and gill chloride cells responses. *Journal of experimental marine biology and ecology* **308**:113-126.
- Wang, D., Kobayashi, T., Zhou, L. and Nagahama, Y. (2004) Molecular cloning and gene expression of Foxl2 in the Nile tilapia, *Oreochromis niloticus*. *Biochemical & Biophysical Research Communications* **320**:83-89.
- Yamada, T. (2004) Behavior of two types of hatch-raised 0-group reared sea bream after release in Hiuchi-nada, Seto Inland Sea. *Nippon suisan Gakkaishi* **70**(2):152-158.
- Yamaguchi, S., Gen, K., Okuzawa, K., Kumakura, N., Kagawa, H., Matsuyama, M. (2003) Regulation of gonadotropin subunit genes expression by 11-ketotestosterone during early spermatogenesis in male red seabream, *Pagrus major*. *Fish Physiology and Biochemistry* **28**(1-4):111-112.
- Yamamoto, A., Nagura, J., Iida, T. (2003) Influence of hemoglobin concentration on tolerance to bacterial gill disease in rainbow trout. *Fish Pathology* **38**(3):99-103.
- Yamamoto, T., Shima, T. and Huruita, H. (2004) Antagonistic effects of branched-chain amino acids induced by excess protein-bound leucine in diets for rainbow trout (*Oncorhynchus mykiss*). *Aquaculture* **232**:539-550.
- Yamano, K., Qiu, GF., Unuma, T. (2004) Molecular cloning and ovarian expression profiles of thrombospondin, a major component of cortical rods in mature oocytes of penaeid shrimp, *Marsupenaeus japonicus*. *Biology of Reproduction* **70**(6):1670-1678.
- Yamano, K., Seto, H., Qiu, GF., Unuma, T. (2003) Immunological characterization of cortical rod proteins of kuruma prawn, *Marsupenaeus japonicus*. *Comparative Biochemistry and Physiology A-Molecular & Integrative Physiology* **136**(2):371-377.

- Yamanoue, Y., Miya, M., Matsuura, K., Katoh, M., Sakai, H., Nishida, M. (2004) Mitochondrial genomes and phylogeny of the ocean sunfishes (Tetraodontiformes : Molidae). *Ichthyological Research* **51**(3):269-273.
- Yamashita, Y., Tominaga, O., Takami, H., Yamada, H. (2003) Comparison of growth, feeding and cortisol level in *Platichthys bicoloratus* juveniles between estuarine and nearshore nursery grounds. *J. Fish Biol.* **63**:617-630.
- Yokoyama, H. (2003) Environmental quality criteria for fish farms in Japan. *Aquaculture* **226**:45-56.
- Yokoyama, H., Ishihi, Y. (2003) Feeding of the bivalve *Theora lubrica* on benthic microalgae: isotopic evidence. *Marine Ecology Progress Series* **255**:303-309.
- Yokoyama, H., Inoue, M. and Abo, K. (2004) Estimation of the assimilative capacity of fish-farm environments based on the current velocity measured by plaster balls. *Aquaculture* **240**:233-247.
- Yoshiura, Y., Kiryu, I., Fujiwara, A., Suetake, H., Suzuki, Y., Nakanishi, T., Ototake, M. (2003) Identification and characterization of *Fugu orthologues* of mammalian interleukin-12 subunits. *Immunogenetics* **55**:296-306.
- Zou, J., Yoshiura, Y., Dijkstra, J.M., Sakai, M., Ototake, M. and Cecombes, C. (2004) Identification of an interferon gamma homologue in Fugu, *Takifugu rubripes*. *Fish & Shellfish Immunology* **17**:403-409.



2004 LITERATURE EXCHANGE
33rd Panel Meeting
from the United States Aquaculture Panel, UJNR
to the Japanese Aquaculture Panel, UJNR

Selected Titles
Compiled by Eileen M. McVey
Aquaculture Information Center
Library and Information Services Division
National Oceanic and Atmospheric Administration
Department of Commerce

November 2004

ABSTRACTS

1. Benson, Barbara Christine. Optimization of the Light Dynamics in the Hydraulically Integrated Serial Turbidostat Algal Reactor (HISTAR). Department of Civil Engineering: Louisiana State University and Agricultural Mechanical College; Aug. 2003. Note: Doctoral Thesis abstract only.
2. Wagener, Cynthia. Evaluation of Static Low Density Media Filters for Use in Domestic Wastewater Treatment. Dept. of Civil and Environmental Engineering: Louisiana State University and Agricultural Mechanical College. 2003 Dec. Note: Abstract only for Master in Science in Civil Engineering.

BOOKS and MONOGRAPHS and CHAPTERS

3. Bridger, Christopher J. and Barry A. Costa-Pierce. Open Ocean Aquaculture from Research to Commercial Reality. Baton Rouge, LA. World Aquaculture Society; 2003. MASGP-03-008.
4. Cooper, Shari and Douglas Lipton. Mid-Atlantic Research Plan. Mid-Atlantic Regional Marine Research Program. 2200 Symons Hall, College Park, Maryland 20742: University of Maryland. Feb. 1994. 163 pp.
5. Florida Department of Agriculture and Consumer Services. 1999 Florida Aquaculture Plan. Current Status Opportunities and Future Needs. Division of Marketing and Development, Bureau of Sea food and Aquaculture, Tallahassee, Florida. 1999 Mar.
6. Lee, Cheng-Sheng. Aquaculture: Retrospective and Outlook an Aquaculture Summit. High Point Design Studio, Taiwan: Asian Fisheries Society and World Aquaculture Society. 2003. 314 pp.
7. Morales-Alamo, Reinaldo and Roger Mann. The Status of Virginia's Public Oyster Resource 1997. College of William and Mary, Virginia Institute of Marine Science, School of Marine Science, Gloucester Point, VA. 1998 May. 49 pp.
8. National Science and Technology Council. Preparing for the Future Through Science and Technology. An Agenda for Environmental and Natural Research. National Science and Technology Council, Committee on Environmental and Natural Resources. 1995 Mar.
9. Office of Seafood. Fish and Fisheries Products Hazards & Controls Guidance. Third Ed. Center for Food Safety and Applied Nutrition, Food and Drug Administration, Public Health Service, Department of Health and Human Services. 2001 Jun. 326 pp.

10. Painter, Amy and Sami Grimes, Editors. Science, Sustainability and Partnerships: Sea Grant in the New Century. NOAA National Sea Grant College Program Biennial Report 2002-2003. U.S. Department of Commerce, National Oceanic and Atmospheric Administration. 2004.
11. Showalter, Stephanie and Lisa. C. Schiavinato. Marine Protected Areas in the Gulf of Mexico: A Survey. University of Mississippi: Mississippi-Alabama Sea Grant Consortium. (2003).
12. Shumway, Sandra E. and John N. Kraeuter. Molluscan Shellfish Research and Management. Charting a Course for the Future; Charleston, South Carolina. 2000 Jan. 156 pp.
13. Soniat, Thomas M.; James D. Simons and Eric N. Powell. Gulf of Mexico Oyster Bibliography. Aquaculture. Texas A&M University, P.O. Box 1675, Galveston, TX 77553-1675: Sea Grant College Program. Mar 1992. TAMU-SG-92-602. 59 pp.
14. Sullivan, Craig V., David L. Berlinsky and Ronald G. Hodson. Striped Bass and Other Morone Culture. "Chapter 2: Reproduction. Developments on Aquaculture and Fisheries Science." 1997. pp.11-73.
15. Timmons, Michael, *et al.* Cornell Aquaculture Work Team. New York Aquaculture Industry: Status, Constraints and Opportunities. Cornell University, Dept. of Biological and Environmental Engineering. 2004 May. 172 pp.
16. Thusty, Michael *et al.* Marine Aquaculture and the Environment. A Meeting for Stakeholders in the Northeast. 59 Technology Park Drive, E. Falmouth, MA 02536-4442: Cape Cod Printing, Inc. 2001. 324 pp.
17. Wayman, William Rittenhouse. From Gamete Collection to Database Development: Development of a Model Cryopreserved Germplasm Repository for Aquatic Species with Emphasis on Sturgeon. School of Renewable Natural Resources: Louisiana State University and Agricultural and Mechanical College. 2003 Aug.

JOURNAL REPRINTS and SERIES

18. Berry, Suzanne; Brad Allen; Terry Hanson and Lisa House. Mississippi State University and University of Florida. An Oyster Marketing Plan Developed from the Results of a Seafood Survey of U.S. Consumers. Mississippi-Alabama Sea Grant. 2002. MASGP-02-019. 11 pp.

19. Brasher, Cynthia; Gitika Panicker and Asim K. Bej. University of Alabama at Birmingham. "Evaluation of PCR Amplification-based Detection of Heat-killed *Escherichia coli* and Cell-free DNA in Shellfish." Molecular Biology Today. (2002); 3: 85-90. Series: MASGP-01-037.
20. Davis, D. Allen; Imad P. Saoud; William J. McGraw and David B. Rouse. Auburn University. "Consideration for *Litopenaeus vannamei* Reared in Inland Low Salinity Waters." VI International Symposium on Aquaculture Nutrition. 2002; 73-90. Series: MASGP-04-014.
21. Fletcher, Kristen M. "If You Can't Beat 'Em, Eat 'Em: Legal Methods to Control Aquatic Nuisance Species in the Gulf of Mexico." Ocean and Coastal Law Journal. 2000; 5(2): 245-269. Series: MASGP-00-032.
22. Fletcher, Kristen M. "A Legal Primer: An Introduction to Wetlands Law and Regulation and Its Practical Impacts." Proceedings of the Sustainability of Water and Wetland Resources Conference. np. MASGP-01-033.
23. Gitika, Panicker, Michael L. Myers and Bej Asim K. "Rapid Detection of *Vibrio vulnificus* in Shellfish and Gulf of Mexico water by real-time PCR." Applied and Environmental Microbiology. 2004 Jan; 70(1): 498-507. MASGP-04-008.
24. Graham, William M., *et al.* "Ecological and Economic Implications of a Tropical Jellyfish Invader in the Gulf of Mexico." Biological Invasions. 2003: 553-69. MASGP-04-012
25. Guo, Ximing; Susan E. Ford and Fusui Zhang. "Molluscan Aquaculture in China." Journal of Shellfish Research. 1999: 18(1):19-31.
26. Hégaret, Hélène; Gary H. Wikfors and Philippe Soudant. "Flow Cytometric Analysis of Haemocytes from Eastern Oysters, *Crassostrea virginica*, subjected to a sudden temperature elevation. I. Haemocyte types and morphology." Journal of Experimental Marine Biology and Ecology. 2003: 293: 238-248.
27. Hégaret, Hélène; Gary H. Wikfors and Philippe Soudant. "Flow Cytometric Analysis of Haemocytes from Eastern Oysters, *Crassostrea virginica*, subjected to a sudden temperature elevation. II. Haemocyte Functions: aggregations, viability, phagocytosis and respiratory burst." Journal of Experimental Marine Biology and Ecology. 2003: 293: 249-265.
28. House, Lisa; Terrill R. Hanson and S. Sureshwaran. University of Florida, Mississippi State University and United States Department of Agriculture. "U.S. Consumers: Examining the Decision to Consume Oysters and the Decision of How Frequently to Consume Oysters." Journal of Shellfish Research. (2003): 22(1): 51-59. Series: MASGP-03-022.

29. Karels, Arthur Alan and Marius Brouwer. University of Southern Mississippi. "Cloning, Sequencing and Phylogenetic/Phenetic Classification of an Estrogen Receptor Alpha (α) Subtype of Sheepshead Minnow (*Cyprinodon variegatus*)."
Comparative Biochemistry and Physiology. (2003): Part B 135: 263-272. Series: MASGP-04-018.
30. Kaufman, G.E.; A.K. Bej; J. Bowers; and A. DePaola. University of Alabama at Birmingham and U.S. Food and Drug Administration. "Oyster-to-Oyster Variability in Levels of *Vibrio parahaemolyticus*." Journal of Food Protection. (3002): 66(1): 125-129. Series: MASGP-04-023.
31. Lee, Chi-Ying; Gitika Panicker and Asim K. Bej. University of Alabama at Birmingham. "Detection of Pathogenic Bacteria in Shellfish Using Multiplex PCR Followed by CovaLink™ NH Microwell Plate Sandwich Hybridization." Journal of Microbiological Methods. (2002): 53: 199-209. Series: MASGP-04-022.
32. Maynard, Desmond J.; Thomas A. Flagg; Conrad V. W. Mahnken and Steve L. Schroder. "Natural Rearing Technologies for Increasing Postrelease Survival of Hatchery Reared Salmon." Bulletin of the National Research Institute of Aquaculture. 1996: Supple. 2: 71-77.
33. McGraw, W.J.; D.A. Davis; D. Teichert-Coddington and D.B. Rouse. Auburn University. "Acclimation of *Litopenaeus vannamei* Postlarvae to Low Salinity: Influence of Age, Salinity, Endpoint, and Rate of Salinity Reduction." Journal of the World Aquaculture Society. 2002: 33(1): 78-84. Series: MASGP-04-015.
34. McLaughlin, Richard J. "The Recent WTO Decision on Sea Turtles and Its Impact on International Environmental Law." Emerging Issues in National Ocean and Coastal Policy; Berkley, California. 1998: 25-29. Series: MASGP-98-027.
35. Saoud, Imad. G.; Allen Davis and David B. Rouse. Auburn University. "Shrimp Culture in Low-Salinity Waters Inland." World Aquaculture Magazine. 2002: 33: 51-52. Series: MASGP-04-016.
36. Saoud, Imad G.; Allen Davis and David B. Rouse. Auburn University. "Suitability Studies of Inland Well Waters for *Litopenaeus vannamei* Culture." Aquaculture. 2003: 217: 373-383. Series MASGP-04-0013.
37. Sea Grant Law and Policy Digest. University, MS: Vol. 2: 2003.
38. Sonu, Sunee C. "The Japanese Sea Urchin Market." NOAA Technical Memorandum NMFS. NOAA-TM-NMFS-SWR-040. November 2003. 34pp.
39. Spatz, Mark J.; James L. Anderson and Susan Jancart. Northeast Region Aquaculture Industry Situation and Outlook 1994-1995. University of Massachusetts, Dartmouth, North Dartmouth, MA; 1996 Jun. Rhode Island Experiment Station: Publication No. 3352. 1996 June.
40. Sullivan, James J. "International Cooperation in World Aquaculture." Bulletin of the National Research Institute of Aquaculture. 1996: 2: pp.85-87.

PROCEEDINGS

41. Brown, Christopher and Leonard Young, Editors. Proceedings of the Marine Ornamentals '99. Collection, Culture, Conservation; Waikoloa, Hawaii. 127 pp.
42. Fletcher, Kristen M. “The Perilous Condition of the Red Snapper in the Gulf of Mexico: Fact or Fiction?” Proceedings of the Louisiana Environment '99: Law, Science, and the Public Interest. 1999. MASGP-99-024.
43. Fletcher, Kristen M. “States Assuming Responsibility Over Wetlands: State Assumption as a Regulatory Option for Protection of Wetlands.” Proceedings of the Sustainability of Water & Wetland Resources Conference. 2001. MASGP-01-032.

The 33rd UJNR Aquaculture panel symposium

Ecosystem and Carrying Capacity of Aquaculture Ground

- for sustainable development of aquaculture
and stock enhancement -

November 2-3, 2004

Seikai National Fisheries Research Institute

Fisheries Research Agency

Nagasaki, Japan

The 33rd UJNR Aquaculture Panel Symposium

Ecosystem and carrying capacity of aquaculture ground

- for sustainable development of aquaculture and stock enhancement -

Seikai National Fisheries Research Institute, NAGASAKI

2-3 November 2004

Organizers

Satoru Toda (NRIA), Osamu Matsuda (Hiroshima University)
Shusaku Kadowaki (Kagishima University), Hisashi Yokoyama (NRIA)
Junya Higano(NRIA), Makoto Yamasaki(SNFRI)

Keynote of the symposium

The role of the fisheries industry as a supplier of healthy food for human has become more important in recent years. Marine aquaculture and stock enhancement have been developed and can now compensate the reduced productivity of the wild catch.

Aquaculture creates impacts on the surrounding environment and ecosystem in various ways. Intensive feeding fish-farming often results in adverse effects on both the fish farm itself and the ecosystem beneath and around the fish farm through changes such as oxygen deficiency, generation of hydrogen sulfide, and blooms of harmful plankton. On the other hand, non-feeding aquaculture and stock enhancement of seaweeds and shellfish potentially prevent eutrophication by removing nutrients and particulate organic matter from the surrounding water. The integration of fish farming with non-feeding aquaculture is therefore a useful approach to mitigation of the environmental problems associated with marine aquaculture.

To achieve sustainable development of aquaculture, we need to deepen our understanding of the environmental problems associated with aquaculture activities, especially their effect on the ecosystem and carrying capacity of aquaculture ground. In this symposium we would like to discuss future perspectives of sustainable and responsible aquaculture, particularly in regard to the natural environment and ecosystem, methods of managing aquaculture grounds, and new approaches to integrated aquaculture management.

The 33rd UJNR Aquaculture Panel Symposium
Ecosystem and carrying capacity of aquaculture ground
-for sustainable development of aquaculture and stock enhancement-

Symposium Agenda

Tuesday November 2, 2004

Session 1. Environment and ecosystem around aquaculture ground

(1) Environment and ecosystem in coastal sea (Chairs: C. Yarish and K. Takayanagi)

- 13:15 Ariake Bay-Present Conditions of Fisheries and Research for Restoration-
Tokimasa Kobayashi (Seikai National Fisheries Research Institute)
- 13:45 Effects of Resuspended Sediments on the Environmental Changes in the Inner
Part of Ariake Bay
Katsuhisa Tanaka (Seikai National Fisheries Research Institute)
Masashi Kodama (National Research Institute of Fisheries Science)
- 14:05 Observation on behavior of the large suspension feeding bivalve *Atrina*
pectinata liskeana under natural conditions
Kengo Suzuki, Setuo Kiyomoto and Yuichi Koshiishi (Seikai
National Fisheries Research Institute)
- 14:25 Physical Mechanism for Dense Algal Bloom in the East China Sea and A
Potential Model Management System
Changsheng Chen (University of Massachusetts-Dartmouth), Mac
Rawson (University of Georgia)

14:45 Coffee break

(2) Carrying capacity in stock enhancement ground (Chairs: B. Hard and Y. Koshiishi)

- 15:05 Appropriate release number of juvenile red spotted grouper into nursery reef
and fishing port habitats
Shigenobu Okumura (Yashima Station, National Center for Stock
Enhancement, Fisheries Research Agency)
- 15:25 An appropriate stocking size of juvenile Japanese flounder, *Paralichthys*
olivaceus, in consideration of carrying capacity.
Yoh Yamashita (Kyoto University)
Yutaka Kurita (Tohoku National Fisheries Research Institute)

(3) Biogeochemical cycling around aquaculture area (Chairs: R.I.E Newell and J. Higano)

- 15:45 Carrying Capacity and Management of Oyster Culture in U.S. West Coast Estuaries
Paul G. Olin (University of California)
- 16:05 Impacts of oyster cultures on nitrogen budgets in Hiroshima Bay, the Seto Inland Sea of Japan
Kenji Tarutani (National Research Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea)
- 16:25 Carrying capacity models for bivalve mollusc aquaculture: consideration of food limitation for growth versus ecosystem ability to process excrement
Roger I. E. Newell (University of Maryland Center for Environmental Science)

Wednesday November 3, 2004

- 9:00 Microbial activity and community structure in a net cage aquaculture area
Tomoko Sakami and Katsuyuki Abo (National Research Institute of Aquaculture)
Kazufumi Takayanagi (Seikai National Fisheries Research Institute)
- 9:20 Effect of effluents from a new fish farming site on the benthic environment
Takashi Tanigawa and Azumi Yamashita (Ehime Prefectural fisheries Experimental Station)
Yoshitsugu Koizumi (Ehime Prefecture Uwajima Regional Office)
- 9:40 Coffee Break

Session 2. Methods of managing aquaculture ground (Chairs: C.-S. Lee and S. Toda)

- 10:00 A New 4-Dimensional GIS for assessing Fish Mariculture Operations and Impacts
Dale Kiefer, Frank J. O'Brien, (System Science Applications), J.E. Jack Rensel (Rensel Associates Aquatic Science Consultants)
- 10:20 Assimilative capacity of fish farm environments as determined by benthic oxygen uptake rate: Studies using a numerical model
Katsuyuki Abo and Hisashi Yokoyama (National Research Institute of Aquaculture)
- 10:40 Macrobenthos, current velocity and topographic factors as indicators to assess the assimilative capacity of fish farms: Proposal of two indices

- Hisashi Yokoyama (National Research Institute of Aquaculture)
 Misa Inoue (Mie Prefecture Kihoku Branch Office, Department of
 Agriculture, Fisheries, Commerce and Industry)
 Katsuyuki Abo (National Research Institute of Aquaculture)
- 11:00 Ecosystem-based Management and Models in Sustainable Management of
 Coastal Aquaculture
 Mac Rawson (The University of Georgia), Changsheng Chen
 (University of Massachusetts-Dartmouth), DaoRu Wang (Hainan
 Marine Development, Planning and Design Institute), Charles Yarish
 (University of Connecticut), MingYuan Zhu (The First Institute of
 Oceanography, State Oceanic Institute), James B. Sullivan (NOAA,
 Gray's Reef National Marine Sanctuary)
- 11:20 Zero Impact Offshore Mariculture in the Pacific Northwest U.S
 J. E. Jack Rensel (Rensel Associates Aquatic Science Consultants),
 John R. M. Forster (Forester Consulting Inc.), Dale A. Kiefer
 (University of Southern California), Dana L. Woodruff (Battelle
 Marine Sciences Laboratory)

**Session 3. Environmental management by integrated system (Chairs: J. McVey
 and S. Kadowaki)**

- 13:15 Direct payment system to promote the appropriate management of aquaculture
 grounds
 Yasuji Tamaki (National Research Institute of Fisheries Science)
- 13:35 An AIP Workshop: “*The Role of Aquaculture in Integrated Coastal
 Management: An Ecosystem Approach*”
 Cheng-Sheng Lee (The Oceanic Institute)
- 13:55 *Ulva sp.* and *Undaria undarioides* culture for reduction nitrogen and
 phosphorus from fish culture area in Wakayama Prefecture, Japan
 Hazime Kimura (Wakayama Research Center of Agriculture, Forestry
 and Fisheries), Masahiro Notoya (Tokyo University of Marine
 Science and Technology)
- 14:15 The growth, N, P uptake rates and photosynthetic rate of seaweeds cultured in
 coastal fish farms
 Yuuki Kitadai and Shusaku Kadowaki (Kagoshima University)
- 14:35 The Bioremediation Potential of Economically Important Seaweed in
 Integrated Aquaculture Systems with Finfish
 C. Yarish (University of Connecticut), G. P. Kraemer (State
 University of New York), J. Kim (University of Connecticut), R.
 Carmona (University of Connecticut), C. D. Neefus (University of

New Hampshire), G. C. Nardi (GreatBay Aquaculture LLC), J. J. Curtis (Bridgeport Regional Vocational Aquaculture School), R. Pereira (University of Connecticut), M. Rawson (University of Georgia)

14:55 Coffee break

15:15 Model Management Plan to Optimize Production of Marine Tropical Systems
James P. McVey (National Sea Grant College Program), Dallas Alston, Alexis Cabarcas (University of Puerto Rico)

15:35 New approach for the integrated aquaculture management from the view point of multi-functional role of fisheries and aquacultures
Osamu Matsuda (Professor Emeritus, Hiroshima University)

Ariake Bay - Present Conditions of Fisheries and Research for its Restoration -

Tokimasa Kobayashi*

*Seikai National Fisheries Research Institute

1551-8 Taira-machi, Nagasaki-shi, Nagasaki, Japan, 851-2213

Email: tokikoba@fra.affrc.go.jp

Ariake Bay is a nutrient enriched productive sea located in western Kyushu and its area is about 1700 square kilometers. The bay is geomorphologically semi-enclosed, being connected to the East China Sea through the narrow Hayasaki-Seto Strait. The bay environment is strongly influenced by the environmental conditions of the East China Sea. The main features of the bay are tidal flats, a large tidal range and enriched with nutrients. The tidal flats cover about 20,000ha along the coast of the bay. Fast tidal currents and strong vertical mixing have been observed in the bay due to the large tidal range (the maximum is about 6m) and shallow water depth. Such a mixing process promotes oxidative decomposition of organic matter in the bottom layer and brings the regeneration of nutrients up to the surface from the bottom. This nutrient cycling provides a high productivity and has prevented bottom-water hypoxia in the inner part of the bay.

However, COD, a well-used environmental parameter for fisheries grounds, is gradually increasing, implying the deterioration of the bay environment. The transparency has also been increasing. The area of muddy sediment has extended to the western part of the bay, where the sediment was formally sandy. The total number of the occurrence and the days of appearance of excessive algal blooms are rising. Furthermore, higher water temperature than normal years has been continuously recorded in recent years.

The tidal range has become smaller, resulting from a decrease of the area of the tidal flats especially during neap tides. Moreover, hypoxia is formed in the inner part of the bay from summer to fall and the concentration of dissolved oxygen falls drastically especially during neap tides.

The catch of bivalves was large and the major part of the fisheries in the bay. The amount of the catch reached more than 80,000 tons in the late 1970s. Since then, however, the production of short-necked clam (*Ruditapes philippinarum*), jack-knife clam (*Sinonovacula constricta*) and pen shell (*Atrina pectinata*) has been diminishing. The catch fell to the level of 30,000 tons early in the 1990s, and it has further fallen to less than 20,000 tons in recent years. Mass mortality due to hypoxia was reported. The predation by ray, which inhabits generally in southern waters, has also reported to be causing serious damage to the bivalve stocks.

The production of cultured *Porphyra* (Nori) has been increasing since 1960's, and it reached 1,500 million sheets in 1970, 2,700 million sheets in 1980, 3,500 million sheets in 1990, and it reached the maximum of 4,400 million sheets in 1999. However, discoloration of cultured *Porphyra* was widespread in the winter of 2000-2001, damaging the *Porphyra* production. The discoloration was thought to be caused by a shortage of nutrients as a result of the unusual environmental conditions such as a large amount of precipitation in the fall, longer daylight hours far exceeding normal years and repeated occurrence of atypical algal blooms. The production was only 2,300 million sheets in that year, the lowest in the past 25 years.

In addition, other commercially important fishes and crustaceans are caught in the bay. However, their share in the total catch is small and the amount of catch has never exceeded 20,000 tons. Annual fluctuation is relatively small and a gradual declining tendency has also been noticeable in the 1990s.

The bivalve catch and *Porphyra* production are undoubtedly the main fisheries production in the bay, but the production is not stable. Therefore, it is an important issue to restore the bivalve resources and to maintain the steady production of *Porphyra*. Additionally, it is required to improve the habitat environment, especially the water and sediment quality. It is known that the improvement of sediment quality can be achieved by irrigation and/or covering by sand. We are investigating the effectiveness and long-term persistence of these methods and also trying to develop more effective techniques to restore the sediment environment.

We are also investigating the formation mechanisms of hypoxia in order to find where hypoxic conditions will form, when they will form, how large an area it will affect, what will trigger hypoxia, and how to eliminate it. Other related research includes the development of techniques to prevent harmful effects of excessive algal blooms on cultured *Porphyra* as well as to predict an outbreak of excessive algal blooms. We also have strong research programs on seeds for release including fish and shellfish, breeding of high-temperature, low-nutrient resistance *Porphyra* in order to restore fisheries resources and to maintain sustainable fisheries in Ariake Bay.

Effects of Resuspended Sediments on the Environmental Changes in the Inner Part of Ariake Bay

Katsuhisa Tanaka^{*1} and Masashi Kodama^{*2}

^{*1}Seikai National Fisheries Research Institute
1551-8 Taira-machi, Nagasaki, Japan, 851-2213
Email:katuhi@fra.affrc.go.jp

^{*2} National Research Institute of Fisheries Science
2-12-4 Fukuura, Kanazawa, Yokohama, Kanagawa, Japan, 236-8648

Turbidity, *in situ* fluorescence of phytoplankton pigments and dissolved oxygen concentration were monitored and their relationships to tidal variations investigated in the inner part of Ariake Bay. Turbidity during spring tides showed large short-term (6-24hrs) variations due to the tidal resuspension of bottom sediments. The phytoplankton biomass increased from neap tides to before spring tides, because of the higher nutrient availability in the surface low salinity water caused by the stratification and the higher transparency due to the low turbidity. While, during the spring tides, the increase of phytoplankton biomass was restricted by the low light availability due to the turbid water caused by the resuspended sediments, strong mixing with offshore water and possibly flocculation of phytoplankton with the resuspended sediments. During the neap tides in summer, large scale hypoxia was also observed in the offshore area of mud flats, where resuspended sediments accumulate on the surface sediments. These observations indicate that the recent reduction of tidal currents is one of the contributing factors to the decrease of resuspension of the bottom sediments and increase in hypoxic areas within the bay.

Observation on behavior of the large suspension feeding bivalve *Atrina pectinata liskeana* under natural conditions

Kengo SUZUKI*, Setuo KIYOMOTO* and Yuichi KOSHIISHI*

*Seikai National Fisheries Research Institute
1551-8 Taira-machi, Nagasaki-shi, Nagasaki, Japan, 851-2213
Email: skengo@fra.affrc.go.jp

The Pen shell (*Atrina* sp.) is a large, suspension feeding bivalve and is also one of the most important species in shellfish fisheries in Ariake sound. However, pen shell production has been decreasing since the 1960's. In a recent survey, mass mortality of the Pen shells was observed in the fishing grounds. Some environmental factors such as the development of a hypoxic water mass, and increase in muddy bottom area have been blamed on the decline of the Pen shell. The possibility of disease has also been discussed. Despite intensive research, the mechanism for the decrease in pen shell resources remains unclear. The Pen shell is also an important species for its ability to construct benthic fauna. When Pen shells are predominant the subtidal seafloor, they usually make dense beds. Their filtration and biodeposition may affect the composition of the benthic fauna and environmental condition. Therefore, the Pen shell is important as a key species in the subtidal benthic community in Ariake sound. However, there have been few ecological studies of the Pen shells in Ariake sound.

To evaluate the effect of environmental change on the Pen shell, we conducted research on the valve movement of the Pen shell which is an indicator of their activity. In the laboratory experiments, we found two patterns of valve movement recorded under aerobic conditions. First, the multi close-open action and second the single close-open action. The multi close-open action is characterized by a series of close-open actions which repeat at intervals of less than 30 seconds. This action appears during the burrowing behavior of the Pen shell. The single close-open action is characterized by a close-open action which occurs at intervals of more than 4 minutes. This action occurs during vomiting behavior. Single close-open action occurred more frequently under hypoxic conditions and the high frequency of this action was associated with creep-out behavior. The result of a laboratory experiment showed that the valve movements represent the state of the Pen shell. We developed two types of instruments to measure the valve movement of Pen shells under field conditions. One is a wire-communication type for the region close to shore and the other is an underwater type for the offshore region. Measurements were performed from May 19 to June 30 2004 on tidal flats near Konagai and from Aug. 24 to Sep. 8 at the subtidal station off Ohura. Measurement on tidal flats revealed a distinct emersion effect. Pen shells were slightly closing their valves and motionless during the emersion. This type of motionless period did not appear when they were submerged. Measurement at the subtidal station revealed burrowing behavior after transplantation and unusual single open-close actions during storms.

Physical Mechanism for Dense Algal Bloom in the East China Sea and A Potential Model Management System

Changsheng Chen¹ and Mac Rawson²

¹School for Marine Science and Technology, University of Massachusetts-Dartmouth, New Bedford, MA 02742, Phone: 508-910-6388, E-mail: c1chen@umassd.edu

²Georgia Sea Grant College Program, University of Georgia, Athens, GA 30605

Abstract

Harmful algal blooms (“red tides”) occur primarily in a confined region on the inner shelf off the Changjiang River in the East China Sea during May-August. The areal extent of these blooms has increased dramatically in the last decade, and is thought to be associated with the rapid increase in nutrient supply via the Changjiang River. Our recent studies have identified three areas of high chlorophyll-a concentration in this region: the near-surface Changjiang plume with high dissolved oxygen and pH, the thermocline above Taiwan Warm Current (TWC) water, and near the bottom north of the Zhoushan Island complex, an area of strong sediment deposition from the Changjiang River with low dissolved oxygen and pH. These results imply that the formation of phytoplankton blooms is controlled by a complex interplay of physical, geological, biological, and chemical processes associated with the Changjiang discharge, sediment deposition, and TWC intrusions. The predicted increase in nutrient loading in the Changjiang River due to further economic development of Shanghai and reduction in sediment discharge due to the Three Gorges dam suggest that this part of the East China Sea could become an ecosystem disaster, with possible downstream contamination of Korea and Japan, unless the nutrient loading from Shanghai and surrounding cities and aquaculture activities along the coast are reduced.

Appropriate release number of juvenile red spotted grouper into nursery reef and fishing port habitats

Shigenobu OKUMURA

Yashima Station, National Center for Stock Enhancement, Fisheries Research Agency
Email: sokumura@fra.affrc.go.jp

Three release experiments were carried out to assess the appropriate release number of red spotted grouper, *Epinephelus akaara*, juveniles into artificial nursery reefs and a fishing port. Six nursery reefs, 3.6 × 3.6 m wide 1.6 m high each containing 6 test units filled with mesh pipes each with a string of scallop shells, were installed on the bottom off Shiraishi Island, central Seto Inland Sea, Japan in July 2000. Artificially reared juveniles, 67.6 ± 7.0 mm in total length, were released into the reefs on 16 October 2001. The densities of released juveniles were arranged at three levels, 500 fish per reef, 1000 fish per reef and 2000 per reef and each density level tested at 2 reefs. A test unit was salvaged from each nursery reef three times to estimate the number of residual fish. At the first salvage operation one week after the release, the estimated mean residual fish number and retention rate of the 500 fish released reefs, 1,000 released reefs and 2,000 released reefs were 198 fish (40%), 444 (45%) and 624 (31%), respectively. Similarly the figures were 93 (19%), 165 (17%) and 267 (13%) at the second salvage one month after the release. At the final salvage operation four months after the release, they were 78 (16%), 66 (7%) and 84 (4%), respectively. The numbers of residual fish in the reefs were directly proportional to the numbers of released fish until one month after release; however the numbers of residual fish were nearly even among the three levels and retention rates were inversely proportional to the released number at four months after release. These results indicate that releasing 2,000 fish per reef is effective to retain a large number of released fish in a reef for a month; and releasing 500 fish is efficient to obtain a high retention rate at four months after release. Thus the appropriate number of released fish should be determined depending on the duration spent in the nursery reef. Release experiments into a fishing port were carried out in Ishima West Port which is shallow (2 – 4 m) and small (4500 m²) located in central Seto Inland Sea, Japan. A total number of 15,000 artificially reared juveniles (69 mm, mean total length) were released into the port on 13 October 1998. Recapture operation took place 16 days after the release using 16 fishing traps (60 × 45 × 20 cm) in the port. Total number of recaptured fish was 6 and catch per unit of effort (CPUE) was calculated as 0.38 (6 fish per 16 traps). A total number of 1,500 juveniles (109 mm) were released into the same port on 11 November 1999. Recapture operation was similarly conducted using 20 traps 28 days after the release. Only one fish was recaptured at that operation and CPUE was 0.05 (1 / 20). Although these operations were experimental and the calculated figures were estimates, CPUE seemed to be directly proportional to the number of released juveniles. The retention rate may be fixed unrelated to the number of released fish within the limits of 1,500 – 15,000 fish per port.

An appropriate stocking size of juvenile Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*, in consideration of carrying capacity

Yoh YAMASHITA*¹ and Yutaka KURITA*²

*¹Fish. Res. Stn. Kyoto Univ., Maizuru, Kyoto 625-0086

*²Tohoku Nat. Fish. Res. Inst., Shiogama, Miyagi 985-0001

E-mail: kurita@affrc.go.jp

Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* is a major coastal commercial fish. The total catch of the flounder is stable between 6,500 and 8,400 tonnes in the last decade. It is also one of the major target species of stock enhancement in Japan. A total of 30 million juveniles are released every year. Economic return rate (amount of catch / cost of stocking) can increase to 2.5 in the case appropriate releasing techniques are applied. Stocking size is one of the most important techniques to be considered as well as the size at release and the timing of release. We applied an ecophysiology model to predict the growth of juvenile Japanese flounder and to evaluate an appropriate stocking size under the criterion that released fish, as a competitor of wild one for food, do not restrict the growth of wild fish. This model consists of 5 compartments (i.e. wild flounder, released flounder from hatchery as a competitor, other competitors, mysids as a main food item, predators) and includes various physiological responses to varying environments (mainly temperature) and ecological interactions (i.e. prey-predator relationship and competition for food) among these compartments. The predicted growth of both wild and released flounders until 65 days after stocking (9 November) well agreed with the observed ones at Ohno Bay, a small shallow sandy area up to 10 m deep in the northwest of Japan. Wild flounder would reach to 141 mm in TL on 9 November without any released flounder, while in fact they grew only to 109 mm. The model explained that the standing biomass of mysids decreased because the amount of predation on mysids by both wild and released fish exceeded the production which was controlled by temperature and abundance of mysids themselves, and that led to the restricted growth of wild flounder. An appropriate stocking level below which release of hatchery-raised flounder would not retard the growth of wild one was predicted as 49,000 individuals while actual stoking level was 76,300.

Carrying Capacity and Management of Oyster Culture in U.S. West Coast Estuaries

Paul G. Olin

Sea Grant Extension Program, University of California, Davis
One Shields Avenue, Davis, CA 95616
Email: pgolin@ucdavis.edu

The Pacific oyster, *Crassostrea gigas* is the most widely cultured shellfish in the world with a harvest in 2002 of 4,216,300 metric tons valued at \$3,488,385 USD. In the Pacific Northwest, oysters are grown in estuarine and near shore waters in the states of Washington, California, Oregon and Alaska. Washington State is the dominant producer with production in 2004 expected to be 35 million kg. California, Oregon and Alaska follow with projected 2004 production of 3.2, 2.3, and 0.1 million kg respectively. With the exception of Washington State where private ownership of intertidal oyster beds is typical, oyster growers generally lease land from state agencies. Management agencies in each state issue permits that approve specific growout techniques, culture species, and production levels. Recently, there have been concerns raised about the environmental interactions of aquacultured species and the potential impacts they may have on coastal ecosystems. For filter feeding bivalve shellfish these concerns include potential changes in water quality parameters such as dissolved oxygen, nutrient levels, turbidity, suspended sediments, organic particulates, and transmittance. Cultured shellfish can also influence the diversity and abundance of fish and invertebrates in surrounding waters and in nearby benthic communities. The complex three dimensional habitat created by cultured shellfish is colonized by a wide variety of vertebrate and invertebrate fauna that interact with organisms in adjacent waters. The degree to which cultured shellfish impact coastal ecosystems is of great concern to natural resource managers who must represent the interests of fishermen, recreational users and the public, while protecting marine resources. In the most extreme case, the biomass of shellfish cultured in a given area may exceed the natural carrying capacity resulting in a decrease in primary productivity with the potential to negatively impact organisms at multiple trophic levels. To determine the carrying capacity of coastal waters is a complex process that involves models with inputs that include variables such as cultured shellfish biomass, feeding rates, primary productivity, nutrient levels, light, temperature, currents, suspended particulates, microzooplankton, mesozooplankton, macrozooplankton, benthic meiofauna, and benthic macrofauna. The complexity of these models and the expensive data collection necessary to populate them, coupled with the dynamic conditions in coastal estuaries and little evidence that carrying capacities are being exceeded, are such that carrying

capacity is not generally not an issue that is addressed by agencies that manage shellfish growing waters on the U.S. West Coast. In most cases, the nutrient rich waters of the Eastern Pacific support primary productivity that provides ample food for both cultured and wild shellfish. There are however, anecdotal reports of reduced growth observed in some localized embayments in Puget Sound that shellfish growers attribute to excessive filter feeding by cultured shellfish. Different management strategies employed by Pacific States will be compared and discussed in relation to the carrying capacities of west coast estuaries.

Impacts of oyster cultures on nitrogen budgets in Hiroshima Bay, the Seto Inland Sea of Japan

Kenji TARUTANI

National Research Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea
Maruishi 2-17-5, Ohno, Saeki, Hiroshima 739-0452, Japan
Email:tarutani@fra.affrc.go.jp

Hiroshima Bay, where located in the western part of the Seto Inland Sea of Japan, has a long history of pacific oyster (*Crassostrea gigas*) culture and produces about 60% of oyster production in Japan. The bivalves not only filtrate particulate materials but also regenerate and mineralize materials in the water column. Therefore, high population density of oyster in the modern culture system should play a significant role on the material cycle in Hiroshima Bay. In the present study, the impact of oyster culture on the nitrogen budget was demonstrated for the northern Hiroshima Bay. In addition, we also evaluated nitrogen removal efficiency from the bay by harvesting the cultured oysters. The output from a simple two-layer box model and nitrogen measurements in the bay over a 1 year period were used to estimate the nitrogen budget in the northern Hiroshima Bay. The input from rivers was the major nitrogen source to the bay and accounted for about 60% of the total dissolved inorganic nitrogen input. Dissolved inorganic nitrogen comprised a great part of total nitrogen input to the bay from rivers. On the other hand, dissolved organic nitrogen accounted for 60% of the annual average of nitrogen standing stock in the bay, suggesting that the biological production is high within the bay. Actually, the annual average of the phytoplankton production rate was very high. Estimated filtration rate of cultured oyster suggested that the filtering activity of oyster culture is highly significant in considering the nitrogen cycle in Hiroshima Bay. In addition, the amount of nitrogen harvested as oyster products was about 0.9 ton N d⁻¹, which is about 5% of daily nitrogen input from rivers to the bay. The removal rate through oyster harvesting is five times higher than that by fishing activities, suggesting that oyster culture plays a significant role on the recycling of nitrogen from Hiroshima Bay to the land.

**Carrying capacity models for bivalve mollusc aquaculture:
consideration of food limitation for growth versus ecosystem ability to
process excrement**

Roger I. E. Newell

Horn Point Laboratory
University of Maryland Center for Environmental Science
PO Box 775, Cambridge, MD 21613, USA
Fax: +1- 410-221-8490; email: newell@hpl.umces.edu

Abstract

Successful commercial production of suspension-feeding bivalves molluscs, such as oysters and mussels, requires knowledge of the stocking density at which intraspecific competition for food reduces growth rates. Obtaining such information for open-water cultivation sites is difficult, however, because food availability varies with rates of phytoplankton production, water currents affect “food flux” through the grow-out sites, etc. In an effort to integrate these complex environmental variables there are ongoing efforts to develop “carrying capacity” models that can be used as predictive tools. Often the emphasis in these models is estimating the standing stock at which production is maximized without negatively affecting growth rates. Such an emphasis means that other important aspects of ecosystem carrying capacity, such as the ability of the culture site to process the excrement produced by the animals, may not be adequately modeled. Future carrying capacity models need to be more fully integrated ecosystem models that consider all aspects of the interactions between the cultivated animals and the ecosystem. Such models should be parameterized to quantify other benefits of culturing suspension-feeding bivalves, such as their ability to exert top-down control on phytoplankton stocks, reduce turbidity, and enhance nutrient removal. These secondary benefits can have economic value to the aquaculturists as part of polyculture systems, environmental remediation, and nutrient trading schemes.

Microbial Activity and Community Structure in a Net-pen Aquaculture Area

Tomoko SAKAMI*¹, Katsuyuki ABO*¹ and Kazufumi TAKAYANAGI*²

*¹National Research Institute of Aquaculture, Nansei, Mie, Japan, 516-0193

*² Seikai National Fisheries Research Institute, 1551-8, Taira-cho, Nagasaki, Japan,
851-2213

E-mail: sakami@fra.affrc.go.jp

Excess organic matter production from net-pen aquaculture farms operated in open water causes serious seawater pollution. To develop sustainable aquaculture systems we need to consider the mechanisms of organic matter cycling. Microbial communities have very important roles in cycling organic matter in seawater. To elucidate how microbial communities are affected by aquaculture activities, we examined the bacterial activity and community structure annually in a red sea bream aquaculture area and a neighboring, non-aquaculture, reference area in Gokasho Bay, Japan.

The bacterial activity parameters examined – abundance, production rate, and extracellular hydrolytic enzyme activity – were always higher in the aquaculture area than in the reference area, and these differences were most pronounced in surface waters in summer. The annual mean bacterial abundance and production rate in the aquaculture area were 4.7×10^9 cells L⁻¹ and 82 mg C m⁻³ day⁻¹: about 1.4 and 3.5 times, respectively, those in the reference area. The annual bacterial production per unit area was estimated at 608 g C m⁻² y⁻¹, which was about 1% of the annual fish food input to fish farms (on a raft-area basis; 57 kg C m⁻² y⁻¹). The annual mean extracellular leucine aminopeptidase (LAP) activity (which represents proteolytic activity) in seawater in the aquaculture area was about twice that in the reference area. On the other hand, the activity of β -glucosidase, which represents polyhydrocarbon degrading activity, in the aquaculture area was about five times that in the reference area, indicating that, overall, β -glucosidase activity was promoted more than LAP activity. These microbial activity parameters were positively correlated with the organic matter concentrations in the water, suggesting that input of organic matter from the fish farms to the surrounding waters promoted microbial activity.

We examined bacterial community structure in seawater by using a PCR–denaturant gradient gel electrophoresis (DGGE) method based on 16S-rRNA gene fragment fingerprinting. Since the level of leucine aminopeptidase activity was closely correlated with the particulate organic matter concentration, the bacterial community was separated into two categories, particle-associated (>1 μ m) and free-living (<1 μ m). In the free-living bacterial community, the number of DGGE bands (which corresponded to bacterial species) ranged from 2 to 12, and the DGGE

profiles were similar in the aquaculture area and in the reference area. However, some bands identified as representing alpha and gamma proteobacteria were observed only in the aquaculture area from spring to autumn. In the particle-associated bacterial community, the number of DGGE bands was less than in the free-living one, and most of the bacteria were identified as cyanobacteria. However, in summer, when the particle-associated bacterial community had high hydrolytic enzyme activity, bands identified as representing the *Cytophaga–Flavobacterium–Bacteroides* group, most isolates of which have the ability to degrade biomacromolecules, were detected in the aquaculture area, together with those of alpha and gamma proteobacteria. These results suggest that the variation in bacterial activity was related to bacterial community structure and that aquaculture activity affects the bacterial community in seawater, both quantitatively and qualitatively.

EFFECT OF EFFLUENTS FROM A NEW FISH FARMING SITE ON THE BENTHIC ENVIRONMENT

Takashi TANIGAWA^{*1}, Azumi YAMASHITA^{*1} and Yoshitsugu KOIZUMI^{*2}

^{*1} Ehime Prefectural Fisheries Experimental Station
5516 Shitaba, Uwajima, Ehime, Japan, 798-0104

^{*2} Ehime Prefecture Uwajima Regional Office
7-1 Tenjin, Uwajima, Ehime, Japan, 798-8511

In relation to improvement of the environment around fish (red seabream and yellowtail) farms in Shitaba Bay, Uwajima, Ehime Prefecture (Japan), about half of fish cages were shifted from the inside (ca. 40m depth) to the outside (60m depth) of the bay during May-November 2001. We investigated the spatio-temporal variability of the benthic environment at the newly established fish farm site, by analyzing the sediments at both the new (outside) and the former (inside) farm sites before and after the shift of fish cages. For example, the organic matter load from the new farm was measured to determine the assimilative capacity of the benthic ecosystem.

Acid volatile sulfides (AVS-S) of sediment at the center of the new farm were 0.028mg/g•dry weight in February 2001 without fish cages. As soon as the fish cages were set, AVS-S drastically increased (0.106 mg/g•dry weight in July) and reached 0.256 mg/g•dry weight in November when the fish cage shift had been completed. Moreover, AVS-S continued to increase and reached its maximum (0.455mg/g•dry weight) in April 2002. However, it remained at ca. 0.3-0.4mg/g•dry weight thereafter. Although AVS-S increased also at the edges and surrounding areas of the new site, concentrations were lower than those at its center. AVS-S decreased at areas over 50m distance from the edges. Total nitrogen (TN) and total phosphorus (TP) of sediment at the new farm site were slightly higher than concentrations observed in a pearl farm and a non-farming site (as reference sites). TP was ca. 50% of that in the former farm site, while no marked difference of TN was detected between the two sites.

From data on the amount of feed sold, production and feeding amount to cultured fish for some cages, about 50% (5,000t as dry weight) of the total amount of feeds sold by the fisheries cooperative association was consumed in the new farm site in 2002. These feeds may be reflected in the total organic carbon (TOC), TN and TP flux caught using sediment traps set at 5m depth above the bottom, which were equivalent to or more than the concentrations at the former farm site.

Thus, it was suggested that the AVS-S increase was largely due to effluent of organic matters (uneaten food, fecal and urinary wastes) from fish farming activities closely linked with the shift of fish cages, and the effect of the loaded organic matter on the benthic ecosystem was low in areas more than 50m away from fish farming site. These findings indicate that the adoption of a periodic shift of fish cages and a fallow system (periodic suspension of fish farm activities) is effective to facilitate the recovery of polluted sediment.

A New, 4-Dimensional GIS for assessing Fish Mariculture Operations and Impacts

Dale A. Kiefer^{1*}, Frank J. O'Brien^{*1}, J.E. Jack Rensel^{*2}

^{*1} System Science Applications, Pacific Palisades, CA 90272

^{*2} Rensel Associates Aquatic Science Consultants, Arlington, WA 98223

Email: kiefer@usc.edu

We have developed a simulation model to assess the effects of a commercial, marine fish farm that could be placed in the Strait of Juan de Fuca, Washington State. The model was imported into a marine GIS software called EASy (Environmental Analysis System). This software provides a 4-dimensional framework (latitude, longitude, depth, and time) to run simulation models as well as to analyze field measurements as graphical and statistical outputs. Although many species of farmed, marine fish can be “introduced” into the model, salmon was selected for this simulation since its growth and metabolism is been extensively studied. This virtual, salmon farm consists of 3 components: a 3 dimensional circulation model, a plankton model that provides a description of the response of plankton to nutrient and oxygen perturbations caused by the farm, and a growth and metabolic model of salmon.

The circulation model is a simple finite element description of the movement of water and suspended and dissolve materials caused by advection and turbulent dispersion. Such circulation is described in terms of a box model in which materials flow across the 6 interfaces of each rectangular element of the 3-dimensional array. Turbulent dispersion was parameterized as an exchange coefficient whose value was some fraction of the speed of advective flow.

The plankton model describes the cycling by plankton of nitrogen and oxygen within each element of the array- both within the farm and the surrounding waters. The outputs of this model consist of a time series of the concentrations of dissolve inorganic nitrogen, oxygen, phytoplankton, and zooplankton. The “master” cycle described the transforms of nitrogen between three compartments, inorganic nitrogen, organic nitrogen in phytoplankton, and organic nitrogen in zooplankton.

The inputs to the fish farm model are the dimensions and location of the farm in the array, daily feed ration, the average weight of fish, and the density of fish. The outputs consist of a time series of the average rates of growth, nitrogen excretion, and respiration. The rates of growth, respiration, and excretion are functions of the average weight of fish, the feed ration, the ambient temperature, oxygen concentration within the farm, and advective flow. The system of equations that describe the metabolism of the fish were obtained by fitting functions to the data found in the extensive literature on the growth and respiration of *Salmo salar* (Atlantic salmon) and

Onchorhynchus nerka (sockeye salmon).

The model indicated that there is no significant ecological concern in deploying such a farm within the study zone of the Strait of Juan de Fuca. This is to be expected given the fact that tidal currents are strong in the region and nutrient concentrations are sufficient to saturate the growth rate of phytoplankton. On the other hand, the model clearly indicates that the growth rate of the salmon are much influenced by environmental parameters such as current velocity, water temperature, and oxygen concentration. The model may be validated by reference to numerous upstream and downstream measurements of dissolved oxygen and nitrogen concentration, conducted in either the state of Maine and Washington State.

Assimilative Capacity of Fish Farm Environments as determined by Benthic Oxygen Uptake Rate: Studies Using a Numerical Model

Katsuyuki Abo* and Hisashi Yokoyama*

*National Research Institute of Aquaculture
224-1 Nakatsuhama-ura, Nansei, Mie 516-0193, Japan
E-mail: abo@fra.affrc.go.jp

In Japan, overstocking of aquaculture pens has led to a deterioration in the environmental conditions of aquaculture grounds. To promote improvements in the environmental quality of aquaculture grounds and maintain suitable conditions for stable aquaculture production, the “Law to Ensure Sustainable Aquaculture Production” was established in 1999. The law determined an environmental criterion for ensuring sustainable aquaculture production based on the capacity of sediments to assimilate organic wastes from fish farms. This criterion considers the relationship between benthic oxygen uptake (BOU) rate and organic matter loading rate; the maximum value of the BOU rate relative to the organic matter loading is regarded as an indicator of the phase of maximum biological mineralization. A value of acid volatile sulfide (AVS-S) content of the sediment corresponding to the maximum BOU is defined as the standard value. Recent studies, however, have suggested that it is difficult to detect the maximum (peak) BOU and to determine the standard value through *in situ* investigations. The practical applicability of this criterion therefore needs to be re-examined scientifically. To do this, we developed a three-dimensional numerical model, which takes advection, dispersion, sedimentation, and decomposition of organic matter from fish farming systems into account. By using simplified geometry, we simulated changes in benthic quality and BOU as functions of variations in the organic matter loading rate. The numerical simulations revealed that it was indeed difficult to estimate the maximum BOU and determine the standard value through *in situ* investigations, because the estimations were greatly influenced by water exchange rate and oxygen supply. We suggest that our numerical model should be used instead of *in situ* investigations for the practical application of the criterion. We also applied this model to an examination of the environmental quality of existing fish farms in a basin. The model proved to be an effective tool for evaluating the assimilative capacity of the fish farm environment and for suggesting appropriate spatiotemporal uses of aquaculture grounds.

Macrobenthos, current velocity and topographic factors as indicators to assess the assimilative capacity of fish farms: Proposal of two indices

Hisashi Yokoyama^{*1}, Misa Inoue^{*2}, Katsuyuki Abo^{*1}

^{*1} National Research Institute of Aquaculture, Fisheries Research Agency, Nansei, Mie 516-0193, Japan

^{*2} Mie Prefecture Kihoku Branch Office, Department of Agriculture, Fisheries, Commerce and Industry, Owase, Mie 519-3695, Japan
E-mail: hyoko@fra.affrc.go.jp

In order to assess the assimilative capacity of fish-farm environments, and to provide site selection guidelines, surveys of the bottom environments and macrobenthos were conducted in fish farms in Kumano-nada, Pacific coast of central Japan (Yokoyama et al. 2002a, b, 2004). In this review, these results are summarized, and requisites for determining the limit of the maximum fish production are discussed from a standpoint of the assimilative capacity. An index, “ED” (Embayment Degree), which is calculated from topographic factors, was devised. Six assemblages of the macrobenthos were recognized on the basis of cluster analysis. These assemblages were classified into three groups: a group characteristic of a healthy zone, a group characteristic of a cautionary zone, and a group characteristic of a critical zone. These groups had their own areas in a gradient of ED versus fish production, suggesting that the variation in macrobenthos and environmental factors found in the study area was attributable to the area’s topography and aquacultural activities, and that the environmental conditions are predictable from ED and fish production. ED can be used as a simple indicator for the site selection, however, it is unknown whether this index is applicable to other localities. Therefore, another index, “ISL” (Index of Suitable Location), which is calculated from the current velocity and water depth at the farm site, was proposed. Current velocities under fish-farm cages were measured using plaster balls at 20 stations to obtain values for the calculation of ISL. The healthy, cautionary and critical zones, were also arranged regularly in a gradient of ISL and fish production. Values of biotic and abiotic factors were found to be changed along this gradient. These findings indicate that ISL is also an effective indicator of the assimilative capacity. ISL, which incorporates factors that are more direct variables that control the waste dispersal and loading and oxygen supply, can be of a wider application to assess the assimilative capacity of fish farms under a variety of topography.

Ecosystem-based Management and Models in Sustainable Management of Coastal Aquaculture

Mac Rawson¹, Changsheng Chen², DaoRu Wang³, Charles Yarish⁴, MingYuan Zhu⁵,
and James B. Sullivan⁶

¹ Georgia Sea Grant College Program, The University of Georgia, Marine Sciences Bldg., Rm 2005, Athens, GA 30602-3636, ² School for Marine Science and Technology, University of Massachusetts-Dartmouth, New Bedford, MA 02742, ³ Hainan Marine Development, Planning and Design Institute, 10th Yiyuan Bldg. No. 69, Haifu Rd., Haikou City, Hainan 570203, P.R.China, ⁴ University of Connecticut, Department of Ecology and Evolutionary Biology, 1 University Place, Stamford, CT 06901-2315, USA, ⁵ The First Institute of Oceanography, State Oceanic Institute, P.O. Box 98, Qingdao 266003, P.R. China, and ⁶NOAA, Gray's Reef National Marine Sanctuary, 10 Ocean Science Circle, Savannah, GA 31411USA

The complex process of ecosystem-based management to be successful requires management tools that can integrate the physical, chemical and biological processes. The modeling tool must function at multiple scales, be easily understood by non-scientist and above all be reliably predict manage alternatives. It must address specific questions about bays, lagoons or coastal oceans without loosing the ability to predict the cumulative consequences to large marine ecosystems.

This presentation discusses the concept of ecosystem modeling and focuses on two examples representing small and medium scale semi-enclosed marine ecosystems using a modified coastal ocean circulation model (Blumberg and Mellor 1987). Xincun Lagoon in southeast Hainan Island is a 21.97km² (~ 6 km X ~ 4 km) with a maximum depth of 10.6 m and 120 m wide outlet to the South China Sea. Xincun City, a major fishing port of ~ 15,000 people is on one shore of lagoon and the other shore is a wildlife reserve. The adjacent lagoon experienced a dramatic growth up to 230 ha of fish pen aquaculture in the 1996 followed by a catastrophic decline. The natural circulation in the lagoon combined with increased oxygen demand that was created by the fish pens was the likely reason for the disaster. Reducing the number of fish pens (33 ha) and the advent of a pearl and macroalgae culture resulted in a more sustainable aquaculture industry and environment. Data indicated that the surface water quality did not exceed China's National Water Quality Standards, but the pens were responsible for an estimated 5,000 tonnes of organic pollutants. Fish pens reduced bottom water and sediment quality. Low quality bottom water also flowed in and out of fish pen area with the tides, because of the slow turnover time (up to 90 days). Further analysis indicated that macroalgae culture on racks and seagrasses acted a nutrient scubbers and could play an important role by reducing ecosystem

risk of less desirable algal blooms (Rawson, *et al.* 2002).

The medium scale modeling experiment was conducted on Jiaozhou Bay that is a shallow bay of $\sim 400 \text{ km}^2$ with an average depth of 7 m and maximum of 50 m. The adjacent city is Qingdao, which is one of China's largest ports and has a population > 2 million people. During the period of this study the bay contain three areas of scallop aquaculture pens. Simulation experiments with two pen stocking densities (12 individual m^{-3} and 24 individuals m^{-3}) indicated that scallops dramatically decreased the concentration of phytoplankton in the culture areas. However, the impact of scallop culture was on nutrient concentrations were small (Chen, *et. al* 1999).

A new management model system has been developed under the fund of the Georgia Sea Grant Program based on the unstructured grid, finite-volume coastal ocean model (FVCOM: Chen *et al.*, 2003). This system provides powerful management tool that allows aquaculture to be integrated into the broader context of coastal and large marine ecosystem management. Fed aquaculture does create pollution, but aquaculture is rarely the only pollution source. We must address the issue of aquaculture's contribution to pollution and find practical solutions to these complex problems.

Zero Impact Offshore Mariculture in the Pacific Northwest U.S.

J.E. Jack Rensel*¹, John R.M. Forster*², Dale A. Kiefer*³, Dana L. Woodruff*⁴

*¹ Rensel Associates Aquatic Science Consultants, Arlington, WA 98223

*² Forester Consulting Inc., Port Angeles, WA 98362

*³ University of Southern California, Los Angeles, CA 90089

*⁴ Battelle Marine Sciences Laboratory, Sequim WA 98382

Email: jackrensel@att.net

Finfish mariculture has existed in the Pacific Northwest for over thirty years, benefiting from good growing conditions and a practical, science-based, state regulatory system. All existing commercial salmon farms in Washington State meet or exceed rigorous government performance standards. However, the industry is small and static; permitting begins locally where shoreline residents have opposed new mariculture sites inshore. The Strait of Juan de Fuca (the “Strait”) is a large area with sparse development and many advantages for mariculture. This U.S. NOAA-OAR sponsored study quantified conditions, probable impacts and possibilities for finfish culture in the Strait.

We conducted a literature review of hydrographic conditions in the Strait to contrast to the physiological requirements of candidate species. Field sampling in the 20 to 40m depth range included far field circulation studies, current and wave height/frequency, nutrient and algal sampling and other studies in three different regions. Results were compared to existing, inshore fish farms nearby. To model effects, we constructed a simulation model and incorporated it into a new, 4 dimensional GIS software (EASy: Environmental Analysis System). The model accounts for growth and metabolic oxygen demands of caged fish and includes the response of algae to nutrients and grazing. It indicates no probable adverse effect of large fish farms in the Strait. We expect the model will be useful in other coastal regions where oxygen or nutrient sensitivity of algal stocks to a developing offshore mariculture industry is a potential concern (e.g., semi-tropical, tropical areas).

Microalgal growth stimulation as a result of fish culture will not occur; the area is naturally replete with dissolved inorganic nitrogen (~10-30 μM). Fish-killing harmful algae were rarely observed and then only in sparse numbers, matching past experience. Tidal current velocities average near 0.3 m/s with extreme velocities of 1 m/s. These flow rates are suitable for larger fish in pens but demand use of modern offshore cages and revised management techniques. No permanent benthic sedimentation will occur in the studied areas due to strong currents. Ocean swell is sometimes moderate in the nearshore western Strait, grading to minimal in the eastern end. Wind waves are usually moderate.

Water temperatures range from 7 to 12°C and should benefit candidate fish species such as black cod or halibut. From midsummer to fall dissolved oxygen concentrations are lower in the Strait due to oceanic upwelling with variance from hourly to annual time scales. Field surveys showed no detectable dissolved oxygen differences among survey locations in the Strait and nearby inshore fish farms, but sampling was limited considering the degree of variability. Summer water temperature was strongly and positively correlated to concurrent dissolved oxygen concentrations in our vertical profiles. Slightly but persistently lower sea surface temperatures were observed in satellite imagery for the central Strait region, and may be indicative of lower dissolved oxygen there. Therefore, eastern and western areas of the Strait may be marginally better for fish culture on this account. Reduced dissolved oxygen is mitigated by high delivery rates and minimal slack tide periods averaging only ~ one minute per day. Adverse environmental impacts from fish mariculture will be minimal or undetectable if properly planned and conducted in the Strait of Juan de Fuca.

DIRECT PAYMENT SYSTEM TO PROMOTE THE APPROPRIATE MANAGEMENT OF AQUACULTURE GROUNDS

Yasuji TAMAKI

National Research Institute of Fisheries Science

Email:tamakiy@affrc.go.jp

Aquaculture occupies an important role in Japanese fisheries. And aquaculture plays various roles and functions through its activities and its existence as well as food supply. But it is becoming a problem in that leftover feed and excrement causes coastal environmental pollution. A subsidy system is already in place in the EU and U.S.A. to compensate for the decreased revenue and increased costs incurred by reducing environmental damage by agriculture. In this study, I consider a plan to apply a similar subsidy system to Japanese aquaculture.

An AIP Workshop: “*The Role of Aquaculture in Integrated Coastal Management: An Ecosystem Approach*”

Cheng-Sheng Lee

The Oceanic Institute,
41-202 Kalaniana’ole Highway, Waimanalo, Hawaii 96795

The Aquaculture Interchange Program (AIP) was established in 1999 at The Oceanic Institute in Hawaii, via the funding support of the National Oceanic and Atmospheric Administration, to explore topics that address critical impediments to aquaculture development in the U.S. One of the most cost-effective methods to obtain new technology or information is through consultation with experts in the area of interest, especially for the U.S., where aquaculture is a new industry. Learning from the experience of other major aquaculture producing countries can help to accelerate the growth of U.S. aquaculture. Also, through information exchange, it is possible for aquaculture producing countries to standardize their operations in a sustainable manner. To date, AIP has conducted eleven international workshops to exchange culture technology among experts in a wide range of areas in the field, including reproduction, hatchery management, grow-out, health management, protein sources for aquafeed, live feed, and environmental concerns. The next AIP workshop will discuss on using aquaculture to balance the ecosystem.

The role of aquaculture production in supplying the world with seafood has increased annually during the past decades. As aquaculture operations expand, conflicts with other users of natural resources will arise. More and more aquaculture operations have to move to offshore. Widely-publicized criticism, however, of the negative impacts from cage aquaculture to the surrounding environment, regardless of its being based on scientific evidence or not, can hinder the development of the industry. Good stewardship in offshore aquaculture can help optimize the function and health of ecosystems (McVey, 2001; Stickney and McVey, 2002). Therefore, it is imperative to gather international experts to discuss practices that maximize the positive contributions of aquaculture to surrounding ecosystems. Forecasting the environmental effects of aquaculture through predictive and hydrological modeling is useful for selecting future aquaculture sites that contribute to a balanced ecosystem (Choo, 2001).

In addition to highlight the accomplishments so far and the access to those information, this presentation will discuss on the plan and expected outputs from our next workshop.

***Ulva sp.* and *Undaria undarioides* Culture for Reduction Nitrogen and Phosphorus from Fish Culture Area in Wakayama Prefecture, Japan**

Hajime Kimura*¹ and Masahiro Notoya*²

*¹ Fisheries Experimental Station, Wakayama Research Center of Agriculture, Forestry and Fisheries Tanabe, Wakayama, Japan, 646-0058, and *² Tokyo University of Marine Science and Technology, Minato-ku, Tokyo, Japan 108-8477

Email: kimura_h0005@pref.wakayama.lg.jp

The amount of nitrogen and phosphorus are loaded from intensive fin-fish culture by metabolic extraction. We examined the balance of nitrogen and phosphorus loading and uptake by seaweed *Ulva sp.* and *Undaria undarioides* in fish culture cages. We used the cages (3×3×3m) at the fish culture area in Wakayama Prefecture, Japan. The cages cultured with red sea bream (*Pagrus major*) contained 225 individuals of 74.1g (mean weight) at 18-28°C in autumn for 96 days, and 260 individual of 172.7g (mean weight) at 14-18°C in winter for 89 days. The nitrogen content retained in fish body with feeds was 18.6% and the remaining nitrogen was loaded into the seawater. Phosphorus retained in fish body with feeds was 28.2% and remaining phosphorus was loaded into the seawater. It can be estimated that 25.0g nitrogen/day and 4.3g phosphorus/day were dissolved during autumn. In winter, almost the same nitrogen and phosphorus percentages (16.9%, 24.8%) were retained in fish body, and 83.1% nitrogen and 75.6% phosphorus was loaded into the seawater. It can be estimated that 13.4g nitrogen/day and 2.4g phosphorus/day were dissolved in winter. Intakes of nitrogen (2.5g/g wet weight /day) and phosphorus (0.16g/g wet weight/day) by *Ulva sp.* were estimated from the result of growth rates in autumn. *U. undarioides* had 5.4g/g wet weight/day and 0.6g/wet weight/day nitrogen phosphorus intakes, respectively, from growth rates in winter time. Culture cage of *Ulva sp.* set adjoining red sea bream culture cages assimilated 10% of nitrogen and 3.7% of phosphorus excreted from cultured fish, yielding a load of 33kg of *Ulva sp.* in autumn. In winter, *U. undarioides* culture set in rope encircling Red sea bream culture cage assimilated 40.5% of nitrogen and 24.8% of phosphorus excreted from cultured fish, yielding a load 161kg of *U. undarioides*. The production seaweeds can be used as feed of top shell (*Turbo cornutus*) and abalone (*Notohaliotis sieboldi*) and as food for humans.

This study was done as part of an enterprise of Wakayama Prefecture Collaboration of Regional Entities for Advancement Technological Excellence and JST.

THE GROWTH, N, P UPTAKE RATES AND PHOTOSYNTHETIC RATE OF SEAWEEDS CULTURED IN COASTAL FISH FARMS

Yuuki Kitadai and Shusaku Kadowaki*

Graduate School of Agricultural Science, Kagoshima University,
Shimoarata 4-50-20, Kagoshima, Japan, 890-0056

*Email:kadowaki@fish.kagoshima-u.ac.jp

To improve the water quality in coastal *Seriola quinqueradiata* and *Pagrus major* farms throughout year, we cultured *Undaria pinnatifida* at 12 ~ 19°C, *Laminaria japonica* at 13 ~ 26 °C and *Ulva pertusa* at 17 ~ 28 °C in the Yatsushiro Sea. The growth, N,P uptake rates and photosynthetic rate of seaweeds cultured were estimated. The growth of the seaweeds cultured were identified and measured. Each of the seaweeds cultured was collected monthly and analyzed for N,P. The observed N,P uptake rates per the blade and thallus area ($P_{N,P}$, mg N,P/m²/day) of each seaweed cultured were calculated by the following formula: $P_{N,P} = (C_{N,P,t} - C_{N,P,0}) \cdot \alpha / t$, where $C_{N,P,0}$ is the N,P contents at the start of the experiment (mg N,P/g dry), $C_{N,P,t}$ is the N,P contents day t (mg N,P/g dry), α is the dry weight per the blade and thallus area, and t is the cultivation days. The calculated N,P uptake rates of the seaweeds cultured were estimated from the dissolved inorganic nutrients concentrations, irradiance, and water temperature characteristics found at the fish farms. The photosynthetic rates of the seaweeds cultured were measured by the Winkler's method used light and dark oxygen bottles on fine day in the fish farm.

The maximum growth rates of the blade length of *U. pinnatifida* and *L. japonica* were 4.2 and 3.0 cm/day and maximum sizes reached to 182 and 250 cm in 2 m layer, respectively. The maximum growth rate of the thallus area of *U. pertusa* was 41 cm²/day and maximum size approached to 640 cm². in 0.5 m layer. The maximum N, P uptake rates (P_m) of *U. pinnatifida* and *L. japonica* in blade and *U. pertusa* in thallus were 3.1, 2.9, and 3.6 mg N/m²/day and 0.54, 0.43, and 0.19 mg P/m²/day, respectively. Maximum P_m for *U. pinnatifida*, *L. japonica* and *U. pertusa* occurred at irradiances of 670, 720, and 730 $\mu\text{mol/m}^2/\text{s}$, respectively. The water temperature coefficients of N,P uptake rates by *U. pinnatifida*, *L. japonica*, and *U. pertusa* were 1.090, 1.071, and 1.076 for N uptake and 1.081, 1.084, and 1.062 for P uptake, respectively. The calculated values of N,P uptake rates of integrated dissolved inorganic nutrients concentrations, irradiance, and water temperature characteristics corresponded well with the observed values. The maximum gross oxygen production rates (P_m') of *U. pinnatifida* and *L. japonica* in blade and *U. pertusa* in thallus were 830, 750, and 6,390 mg O₂/kg wet/h, respectively.

The allowable volume of seaweeds cultured for N uptake to N load in fish farming area, and for oxygen production to oxygen consumption by a fish cultured in cage were estimated by using the P_m and P_m' values, respectively.

THE BIOREMEDIATION POTENTIAL OF ECONOMICALLY IMPORTANT SEAWEED IN INTEGRATED AQUACULTURE SYSTEMS WITH FINFISH

C. Yarish¹, G.P. Kraemer², J. Kim¹, R. Carmona^{1,3}, C.D. Neefus⁴, G.C. Nardi⁵, J.J. Curtis⁶, R. Pereira^{1,7} and M. Rawson⁸

¹University of Connecticut, Department of Ecology and Evolutionary Biology, 1 University Place, Stamford, Connecticut, 06901-2315, USA;

²State University of New York, Purchase College, Division of Natural Sciences, Purchase, New York, 10577, USA;

³Departamento de Ecología, Facultad de Ciencias, Campus de Teatinos, 29071 Málaga, Spain

⁴University of New Hampshire, Department of Plant Biology, Office of Biometrics, G32 Spaulding Life Science Center, Durham, New Hampshire, 03824, USA;

⁵GreatBay Aquaculture LLC, 153 Gosling Road, Portsmouth, NH, 03801, USA;

⁶Bridgeport Regional Vocational Aquaculture School, 60 St. Stephen Road Bridgeport, CT 06605, USA;

⁷Dept. Botanica FCUP, Centre for Marine and Environmental Research, R. do Campo Alegre, 823, 4150 Porto, PORTUGAL; and

⁸Georgia Sea Grant College Program, University of Georgia, Athens, Georgia, USA

Key words: bioremediation, integrated aquaculture, seaweeds, nori, *Porphyra*, *Kappaphycus*, finfish

The value of cultivated, managed and wild harvested seaweeds exceed over \$U.S. 6.0 billion with 87% of this value derived from aquaculture. The most valued of the maricultured seaweeds is the red alga *Porphyra*, or nori. It is a major source of food for humans throughout the world, although it is primarily cultivated in Asia (China, Japan and South Korea). Worldwide production is approximately 14 billion sheets, with an annual value of over \$U.S. 1.8 billion. In addition to *Porphyra*, other edible seaweeds include *Gracilaria*, *Undaria*, *Laminaria* and *Caulerpa* with their collective value exceeding \$U.S. 3.0 billion. Seaweeds are also the industrial sources of carrageenans (*Chondrus*, *Euचेuma* and *Kappaphycus*), alginates (*Ascophyllum*, *Laminaria*, and *Macrocystis*) and agars (*Gelidium* and *Gracilaria*). These important polysaccharides are used in the food, textile, paint, biotechnological and biomedical industries and have a global value of approximately U.S. \$580 million. Seaweeds have significant value in agriculture as soil additives, fertilizers and seaweed meals with their value over \$U.S. 20 million. The increasing demand for safe, healthy, and minimally processed foods is creating an opportunity for seaweed products as functional foods, nutraceuticals, and alternative medicinal products. There is now renewed interest in using seaweeds as nutrient removal systems in integrated

aquaculture of finfish, shellfish and crustaceans. Nutrifcation of coastal waters as a result of anthropogenic activities is a worldwide phenomenon. The development of integrated aquaculture practices appears increasingly necessary to remedy the economic and environmental limitations of monospecific aquaculture whose sustainability is questionable. To address this pressing environmental issue, the bioremediation potential of several *Porphyra* species has been assessed for open water (*Porphyra*/salmon) and land-based (*Porphyra*/flatfish) systems. The bioremediation role of other seaweeds (e.g. *Kappaphycus*), acting as biological nutrient removal systems, and the mutual benefits for co-cultured organisms will also be illustrated. Properly planned integrated aquaculture systems will enhance the health of coastal waters and will benefit the aquaculture industry, which needs to move in new directions.

Model Management Plan to Optimize Production of Marine Tropical Systems

James P. McVey ¹ and Dallas E. Alston ² and Alexis Cabarcas ²

¹ National Sea Grant College Program

1315 SSMB Complex III

Silver Spring, MD 20910 USA

² Department of Marine Sciences, PO Box 9013

University of Puerto Rico, Mayagüez Campus

Mayagüez, PR 00681-9013 USA

NOAA, the University of Puerto Rico Sea Grant College Program and other federal, state and private partners are proposing to develop model management plans suitable for tropical marine ecosystems. Recent advances in the development of offshore, submerged, marine aquaculture technology for island locations has provided a new tool for managing island coastal resources. In this paper we offer a new ecosystem-based management scenario using aquaculture to optimize value and function of tropical island ecosystems. Puerto Rico offers an excellent opportunity to unite several management plans while maintaining the flexibility to work with user groups to manage and optimize sustainable production from marine tropical systems. Puerto Rico has several examples of tropical ecosystems available for study ranging from the high energy coastlines found on the northeast coast to low energy, mangrove shorelines on the southwest coast. Coral reefs are prevalent in low energy areas. All Puerto Rico coastal communities have seen a decline in fishery resources and habitats leading to a decline in value from these resources and a new approach for coastal resource management is needed.

New Approach for the Integrated Aquaculture Management from the View Point of Multi-functional Role of Fisheries and Aquacultures

Osamu MATSUDA (Professor Emeritus, Hiroshima University)
6-8-13 Hachihonmatsu-minami, Higashi-hiroshima 739-0144, Japan
E-mail: matsuda036@go3.enjoy.ne.jp

Supply of food, in particular of protein food has long been widely accepted as major role of fisheries and aquaculture for human society. However, recent growing concern on the global environmental issue and sustainable development is now making clear that fisheries and aquaculture also play important roles on material cycling between land and sea, monitoring of fishing environment and living resources, purification of pollutant through heterotrophic activities of organisms and food chain, environmental watching by fisherman, environmental education, ecotourism and so on. On this context, Science Council of Japan submitted a special report to the Minister of Agriculture, Forestry and Fisheries very recently (Aug. 2004) on the contents and evaluation of multiple roles and functions of fisheries and fishing communities, in which role on environmental conservation, role on formation of regional community, role on maintaining personal security, role on providing fields of education and many kinds of amenity were highlighted as well as the role of food supply. Responsible and sustainable aquaculture also can play important functional roles in many ways. As an example of possible new approach for the integrated aquaculture management from the view point of multi-functional role of aquaculture, present status and possible future direction of large scale oyster culture in Hiroshima Bay, Japan are examined, where very long experience of oyster culture, monitoring and management of paralytic shellfish poisoning are accumulated. Interdisciplinary investigation on the restoration of deteriorated Hiroshima Bay environment also started in April, 2004 by the prefecture government. For the future direction, integrated oyster culture management responsible for regional economy and employment are proposed with particular reference to safe and clean oyster meat supply, sea cucumber resource enhancement by raft oyster culture system, recovery of discharged N and P from land, environmental and red tide monitoring system, many varieties of recreation, seascape, eco-tourism and environmental education for especially younger generation. This proposed integrated oyster culture management should be involved in the more holistic environmental and ecosystem management by much variety of stakeholders as a part of integrated coastal management of Hiroshima Bay including watershed and land use management of Ohta River watershed which has strong influence on the biological productivity and diversity of the ecosystem in Hiroshima Bay.

List of U.S. Participants

PRESENTERS

Charles Yarish

Professor, Department of Ecology & Evolutionary
Biology
University of Connecticut
1 University Place
Stamford, CT 06901-2315, U.S.A.
Tel: +1-203-251-8432, Fax: +1-203-251-8592
Email: Charles.Yarish@uconn.edu

Roger I. E. Newell

Horn Point Laboratory
University of Maryland Center for Environmental
Science
PO Box 775, Cambridge, MD 21613, USA
Tel: +1-410-221-8410, Fax: +1-410-221-8490
Email: newell@hpl.umces.edu

Mac Rawson

Georgia Sea Grant Director
Georgia Sea Grant College Program
The University of Georgia
Marine Sciences Bldg., Rm 2005
Athens, GA 30602-3636
Tel: +1-706-542-5954, Fax: +1-706-542-3652
Email: mrawson@uga.edu

Paul G. Olin

Director, California Sea Grant Extension Program
University of California Sea Grant, Davis
California
133 Aviation Blvd., Suite 109
Santa Rosa, CA 95403
Tel: +1-707-565-2621, Fax: +1-707-565-2623
Email: pgolin@ucdavis.edu

Changsheng Chen

Professor, The School of Marine Science &
Technology
University of Massachusetts-Dartmouth
706 S. Rodney French Blvd.
New Bedford, MA 02744
Tel: +1-508-910-6388, Fax: +1-508-910-6371
Email: C1Chen@umassd.edu

Dale Kiefer

Professor, Department of Biological Sciences,
USC
University Park
Los Angeles, CA 90089-0371
Tel: +1-213-740-5814, Fax: +1-213-740-8123
Email: kiefer@usc.edu

Jack Rensel

Rensel Associates Aquatic Science Consultants
4209 234th Street NE
Arlington WA 98223 USA
Tel: +1-360-435-3285, Fax: +1-360-435-7409
Email: jackrensel@att.net

Cheng-Sheng Lee

Director of Aquaculture Institute Program
Oceanic Institute
41-202 Kalaniana'ole Hwy.
Waimanalo, HI 96795
Tel: +1-808-259-3107, Fax: +1-808-259-8395
Email: cslee@oceanicinstitute.org

Dallas Alston

Professor, Department of Marine Sciences
University of Puerto Rico at Mayagüez
PO Box 9013
Mayagüez, PR 00681-9013 USA
Tel: +1-787-832-4040, x 3223; +1-787-265-3838
Fax: +1-787-265-5408
Email: dalston@uprm.edu

PRESENTERS GUESTS

Katherine Kiefer

Jane Canfield

DELEGATION

James P. McVey

Aquaculture Program Director
National Sea Grant College Program
Office of the Oceanic and
Atmospheric Research/NOAA
1315 East-West Highway, 11th FL
Silver Spring, MD 20910-3282, USA
Tel: +1-301-713-2451, ext. 160
Fax: +1-301-713-0799
Email: jim.mcvey@noaa.gov

James Sullivan

Science Advisor for Hawaii Sea Grant
Hawaii Sea Grant College
P.O. Box 2065
Del Mar, CA 92014, USA
Tel: +1-858-481-6243, Fax: +1-858-481-2619
Email: jamesjsull@aol.com

William Heard

Program Manager, Auke Bay Fisheries Laboratory
National Marine Fisheries Service,
National Oceanic and Atmospheric Administration
(NOAA)
11305 Glacier Highway, Juneau Alaska 99801,
USA
Tel: +1-907-789-6003, Fax: +1-907-789-6094
Email: bill.heard@noaa.gov

Charles Helsley

Researcher Emeritus
Department of Geology and Geophysics
School of Ocean Environmental
Science and Technology
University of Hawaii at Manoa
2525 Correa Road, Honolulu, HI 96822, USA
Tel: +1-808-956-2873, Fax: +1-808-956-3014
Email: chuck@soest.hawaii.edu

Bob Iwamoto

Division Director, Resource Enhancement &
Utilization Technologies Division
Northwest Fisheries Science Center
National Marine Fisheries Service/NOAA
2725 Montlake Blvd. East
Seattle, WA 98112, USA
Tel: +1-206-860-3380, Fax: +1-206-860-3467
Email: bob.iwamoto@noaa.gov

Melanie Caesar

Program Manager, Office of International
Activities
Office of the Oceanic and Atmospheric
Research/NOAA
1315 East-West Highway, R/IA #11217
Silver Spring, MD 20910, USA
Tel: +1-301-713-2469 ext 161
Fax: +1-301-713-1459
Email: melanie.caesar@noaa.gov

List of Japanese Participants

PRESENTERS

Tokimasa Kobayashi

Director General, Seikai National Fisheries
Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600; Fax: +81-95-850-7767
E-mail: tokikoba@affrc.go.jp

Katsuhisa Tanaka

Chief, Biological Oceanography Section
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600; Fax: +81-95-850-7767
E-mail: katuhi@fra.affrc.go.jp

Kengo Suzuki

Researcher, Resources Enhancement Section
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600; Fax: +81-95-850-7767
E-mail: Skengo@fra.affrc.go.jp

Shigenobu Okumura

Senior Researcher, Yashima Station
National Center for Stock Enhancement
Fisheries Research Agency (FRA)
Yashima-Higashi, Takamatsu, Kagawa 761-0111,
Japan
Tel: +81-87-841-9241, Fax: +81-87-841-9242
E-mail: sokumura@fra.affrc.go.jp

Yutaka Kurita

Chief, Coastal Fisheries Resources Section
Tohoku National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
3-27-5 Shinhama, Shiogama, Miyagi 985-0001,
Japan
Tel: +81-22-365-1191, Fax: +81-22-367-1250
E-mail: kurita@affrc.go.jp

Kenji Tarutani

Senior Researcher, Coastal Productivity and
Environment Division
National Research Institute of Fisheries and
Environment of Environment of Inland Sea
Fisheries Research Agency (FRA)
2-17-5 Maruishi, Ohno, Saeki, Hiroshima 739-
0452, Japan
Tel: +81-829-55-0666, Fax: +81-829-54-1216
E-mail: tarutani@fra.affrc.go.jp

Tomoko Sakami

Senior Researcher, Farming System Division
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan
Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962
E-mail: sakami@fra.affrc.go.jp

Takashi Tanigawa

Senior Researcher, Ehime Prefectural Fisheries
Station
5516 Shitaba, Uwajima, Ehime 798-0104, Japan
Tel: +81-895-29-0236, Fax: +81-895-29-0230
E-mail: tanigawa-takashi@pref.ehime.jp

Katsuyuki Abo

Senior Researcher, Farming System Division
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan
Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962
E-mail: abo@fra.affrc.go.jp

Hisashi Yokoyama

Head, Environment & Resources Management
Group
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan
Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962
E-mail: hyoko@fra.affrc.go.jp

Hajime Kimura

Senior Researcher, Fisheries Experimental Station
Wakayama Research Center of Agriculture,
Forestry
Mera, Tanabe, Wakayama 646-0058, Japan
Tel: +81-739-22-0506, Fax: +81-739-24-3608
E-mail: kimura_h0005@pref.wakayama.lg.jp

Yuuki Kitadai

Doctoral Course, Graduate School of Agricultural
Science
Kagoshima University
4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan
Tel: +81-99-286-4161, Fax: +81-99-286-4161
E-mail: yuukin44@hotmail.com

Yasuji Tamaki

Senior Researcher, Fisheries Economy Division
National Research Institute of Fisheries Science
Fisheries Research Agency (FRA)
2-12-4 Fukuura, Kanazawa-ku,
Yokohama 236-8648, Japan
Tel: +81-45-788-7637, Fax: +81-45-788-7637
E-mail: tamakiy@affrc.go.jp

Osamu Matsuda

Profesor Emeritus, Hiroshima University
6-8-13 Hachihon-matsu-minami, Higashi-
Hiroshima 739-0144, Japan
Tel: +81-82-428-3846, Fax: +81-82-428-3846
E-mail: matsuda036@go3.enjoy.ne.jp

OTHERS**Yosuke Aramaki**

Graduate student, Marine Research Institute,
Nagasaki University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881
E-mail: d704071r@stcc.nagasaki-u.ac.jp

Kunihiko Fukusho

Director, Husbandary and Exhibition Department
Port of Nagoya Public Aquarium
1-3 Minatomachi, Minato-ku,
Nagoya 455-0033, Japan
Tel: +81-52-654-7107, Fax: +81-52-654-7001
E-mail: k-fukusho@nagoyaminato.or.jp

Ichiro Hara

Director, Research Promotion and Development
Department
Fisheries Research Agency (FRA)
15F Queen's Tower B, 2-3-3 Minatomirai, Nishi-
ku, Yokohama 220-6115, Japan
Tel: +81-45-227-2674, Fax: +81-45-227-2703
E-mail: ichiroh@fra.affrc.go.jp

Keita Hattori

Director, Goto Station, National Center for Stock
Enhancement
Fisheries Research Agency (FRA)
122-7 Nunoura, Tamanoura, Goto, Nagasaki 853-
0508, Japan
Tel: +81-959-88-2750, Fax: +81-959-88-2170
E-mail: keynote@affrc.go.jp

Kazuyuki Harada

Graduate student, Marine Research Institute,
Nagasaki University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881
E-mail: d702020u@stcc.nagasaki-u.ac.jp

Hideki Hayase

Student, Marine Research Institute, Nagasaki
University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881

Junya Higano

Team Leader, Environment and Resources
Management Group
Farming Systems Division
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-0913, Japan
Tel: 599-66-1830, Fax: 599-66-1962
E-mail: higa@fra.affrc.go.jp

Keiji Hirano

Chief, Fishing Ground Environment Division
Nagasaki Prefectural Institute of Fisheries
1551-4 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-6316, Fax: +81-95-850-6374
E-mail: khirano@marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp

Michitoyo Ishiyama

Head, Information Section
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: mishiyam@fra.affrc.go.jp

Fuminari Ito

Group Leader, Farming System Division
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan
Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962
E-mail: fuminari@fra.affrc.go.jp

Shusaku Kadowaki

Professor, Faculty of Fisheries
Kagoshima University
4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan
Tel: +81-99-286-4161, Fax: +81-99-286-4161
E-mail: kadowaki@fish.kagoshima-u.ac.jp

Ryo Kimura

Research Coordinator, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council Secretariat
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
1-2-1 Kasumigaseki, Chiyoda-Ku, Tokyo 100-8950, Japan
Tel: +81-3-3502-8111 ex.5067
Fax: +81-3-3507-8794
E-mail: rkim@affrc.go.jp

Katsunori Kimoto

Chief, Stock Productivity Section
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: kimoto@fra.affrc.go.jp

Shigeru Kitahara

Researcher, Fishing Ground Environment Division
Nagasaki Prefectural Institute of Fisheries
1551-4 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-6316, Fax: +81-95-850-6374
E-mail: kitahara@marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp

Setuo Kiyomoto

Senior Researcher, Coastal Fisheries & Aquaculture Division
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: kiyomoto@fra.affrc.go.jp

Yoko Kiyomoto

Senior Researcher, East China Sea Fisheries Oceanography Division
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: ykiyo@fra.affrc.go.jp

Masahiro Kobayashi

Senior Researcher, Farming Biology Division
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan
Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962
E-mail: kobamk@affrc.go.jp

Yuichi Koshi-ishi

Chief, Resources Enhancement Section
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: koshii@fra.affrc.go.jp

Kazuki Koyama

Graduate student, Marine Research Institute,
Nagasaki University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881
E-mail: d703021c@stcc.nagasaki-u.ac.jp

Jun Kurita

Senior Researcher, Aquatic Animal Health Division
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
224-1 Hiruta, Tamaki,, Watarai, Mie 519-0423, Japan
Tel: +81-596-58-6411, Fax: +81-596-58-6413
E-mail: kuritaj@fra.affrc.go.jp

Hideki Maekawa

Student, Marine Research Institute, Nagasaki University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881

Yukio Maeno

Chief, Fisheries & Environment Research Section
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: ymaeno@affrc.go.jp

Masahiko Matsuda

Researcher, Grow out & Pathology Division
Nagasaki Prefectural Institute of Fisheries
1551-4 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-6316, Fax: +81-95-850-6374
E-mail: matsuda@marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp

Masatoshi Matsuo

Graduate student, Marine Research Institute,
Nagasaki University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881
E-mail: d704032b@stcc.nagasaki-u.ac.jp

Kunihiro Murakami

Assistant Director, Fish Ranching and Aquaculture
Division
Fisheries Agency of Japan
1-2-1 Kasumigaseki, Chiyoda, Tokyo 100-8907
Tel: +81-3-3502-8111 (ext. 7366),
Fax: +81-3-3591-1084
E-mail: kunihiro_murakami@nm.maff.go.jp

Kazuhiro Nakajima

Research Coordinator, Research Promotion and
Development Department
Fisheries Research Agency (FRA)
15F Queen's Tower B, 2-3-3 Minatomirai, Nishi-
ku, Yokohama 220-6115, Japan
Tel: +81-45-227-2677, Fax: +81-45-227-2703
E-mail: kazuhiro@fra.affrc.go.jp

Ayumi Nakaoka

Student, Marine Research Institute, Nagasaki
University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881

Jun Nasuda

Student, Marine Research Institute, Nagasaki
University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881
E-mail: s701072x@stcc.nagasaki-u.ac.jp

Shiro Nishihama

Senior Researcher, Coastal Fisheries &
Aquaculture Division
Seikai National Fisheries Research Institute,
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: chiton@fra.affrc.go.jp

Masahiro Notoya

Professor, Laboratory of Applied Phycology
Tokyo University of Marine Science and
Technology
Konan-4, Minato-ku, Tokyo 108-8477, Japan
Tel: +81-3-5463-0532, Fax: +81-3-5463-0688
E-Mail: notoya@s.kaiyodai.ac.jp

Yasuki Ogawa

Chief, Research Planning & Coordination Section
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: ogawayas@affrc.go.jp

Kazumaro Okamura

Senior Researcher, East China Sea Fisheries
Oceanography Division
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: mrmaro@fra.affrc.go.jp

Masao Sakaguchi

Researcher, Fishing Ground Environment Division
Nagasaki Prefectural Institute of Fisheries
1551-4 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-6316, Fax: +81-95-850-6374
E-mail:
sakaguchi@marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp

Yasuji Sakai

Director General, National Research Institute of
Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan
Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962
E-mail: sakaiy@fra.affrc.go.jp

Katsumasa Shimoda

Research student, Marine Research Institute,
Nagasaki University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-850-7311, Fax: +81-95-840-1881

Kazufumi Takayanagi

Director, East China Sea Fisheries Oceanography
Division
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: kazufumi@affrc.go.jp

Takeshi Takegaki

Graduate School of Science & Technology,
Nagasaki University
1-14 Bunkyo-machi, Nagasaki 852-8521, Japan
Tel: +81-95-819-2819, Fax: +81-95-819-2799
E-mail: takegaki@net.nagasaki-u.ac.jp

Kyoichi Tamai

Director, Research Planning & Coordination
Division
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: tamaik@fra.affrc.go.jp

Akio Tamaki

Professor, Marine Research Institute, Nagasaki University
1551-7 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-5391, Fax: +81-95-840-1881
E-mail: tamaki@net.nagasaki-u.ac.jp

Satoru Toda

Director, Farming System Division
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan
Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962
E-mail: satoru@fra.affrc.go.jp

Tokio Wada

Counselor, Resources Enhancement Promotion
Department
Fisheries Agency of Japan
1-2-1 Kasumigaseki, Chiyoda, Tokyo 100-8907
Tel: +81-3-3502-8111 (ext. 7316),
Fax: +81-3-3591-5314
E-mail: wadat@affrc.go.jp

Makoto Yamasaki

Director, Coastal Fisheries & Aquaculture
Division
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: yama850@fra.affrc.go.jp

Masahito Yokoyama

Director, Farming Biology Division
National Research Institute of Aquaculture
Fisheries Research Agency (FRA)
422-1 Nansei, Watarai, Mie 516-1913, Japan
Tel: +81-599-66-1830, Fax: +81-599-66-1962
E-mail: yokomasa@fra.affrc.go.jp

Taku Yoshimura

Chief, Coastal Fisheries Resources
Seikai National Fisheries Research Institute
Fisheries Research Agency (FRA)
1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan
Tel: +81-95-860-1600, Fax: +81-95-850-7767
E-mail: puerulus@fra.affrc.go.jp

Tatsuya Yurimoto

Researcher, Research Center for Fisheries &
Environment in the Ariake & Yatsushiro Bays
Coastal Fisheries and Aquaculture Division
Seikai National Fisheries Research Institute/FRA
1551-8 Taira-machi, Nagasaki-shi, Nagasaki
851-2213, Japan
Tel: 95-860-1600, Fax: 95-850-7767
E-mail: yurimoto@fra.affrc.go.jp

第 33 回 UJNR 水産増養殖専門部会日米合同会議議事録

発行日 平成 16 年 11 月 16 日
編集 UJNR 事務局
印刷・発行 独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所
〒516-0193
三重県度会郡中津浜浦 422-1
電話 0599-66-1830
ファックス 0599-66-1962